

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置（国際連携専攻）							
フリガナ設置者	コクリツガクカクジケン トカイコクリツガクカクコ 国立大学法人 東海国立大学機構						【連携外国大学の設置者】 タイ王国	
フリガナ大学の名称	ナゴヤガクカクダクイン 名古屋大学大学院（Graduate school of Nagoya University）						【連携外国大学の名称】 Chulalongkorn University (จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย)	
大学の位置	愛知県名古屋市千種区不老町1						【連携外国大学の本部の位置】 Phayathai Road, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand	
大学の目的	名古屋大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	タイの豊富な天然資源や原料と日本の先進技術を組み合わせ、材料・エネルギーを効率的に循環させることによりSDGsの達成を目指した高度な研究を展開し、世界屈指の先端研究の実現を図るとともに、学位の国際的質保証を担保することにより、研究力ならびに教育力の国際的評価を獲得し、大学の国際的発信力と競争力の向上を図る。これにより、マテリアル工学分野の専門的知識・技術を熟知し、他分野との緊密な連携によって広い視野と論理的思考力を持ち、豊かな人間性や高い倫理性を備え、人類の持続可能な発展に深く貢献できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	工学研究科 (Graduate School of Engineering)	年	人	年次人	人	博士 (工学) (Doctor of Philosophy)	令和4年4月 第1年次	愛知県名古屋市千種区不老町1
	名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻 (International Collaborative Program in Sustainable Materials and Technology for Industries between Nagoya University and Chulalongkorn University)	3	5 <143>	—	15 <429>			愛知県名古屋市千種区不老町1
	計		5	—	15			

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	(岐阜大学)		<ul style="list-style-type: none"> 医学部 医学科〔定員減〕 (△25) (令和4年4月) ※臨時定員増の延長がない場合 教育学研究科 教職実践開発専攻 (P) (40) (令和3年4月事前相談) 教育臨床心理学専攻 (M) (5) (令和3年4月事前相談) 教職実践開発専攻 (P) (廃止) (△25) ※令和4年4月学生募集停止 心理発達支援専攻 (M) (廃止) (△10) ※令和4年4月学生募集停止 総合教科教育専攻 (M) (廃止) (△34) ※令和4年4月学生募集停止 							
	(名古屋大学)		<ul style="list-style-type: none"> 理学研究科 理学専攻 (M) (188) (令和3年4月事前相談) 理学専攻 (D) (70) (令和3年4月事前相談) 素粒子宇宙物理学専攻 (M) (廃止) (△66) 素粒子宇宙物理学専攻 (D) (廃止) (△30) ※令和4年4月学生募集停止 物質理学専攻 (M) (廃止) (△63) 物質理学専攻 (D) (廃止) (△22) ※令和4年4月学生募集停止 生命理学専攻 (M) (廃止) (△42) 生命理学専攻 (D) (廃止) (△18) ※令和4年4月学生募集停止 医学部 医学科〔定員減〕 (△7) (令和4年4月) ※臨時定員増の延長がない場合 (2年次編入学定員) (4) (令和3年概算要求予定) (3年次編入学定員) (△5) ※3年次編入学定員は令和4年4月学生募集停止 工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻 (D) (5) (令和3年8月意見伺い予定) 材料デザイン工学専攻 (D)〔定員減〕 (△2) (令和4年4月) 物質プロセス工学専攻 (D)〔定員減〕 (△1) (令和4年4月) 化学システム工学専攻 (D)〔定員減〕 (△2) (令和4年4月) 							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数			卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計					
	工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻	2 科目	0 科目	12 科目	14 科目	52 単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設	工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻		22 (22)	21 (21)	5 (5)	23 (23)	71 (71)	0 (0)	0 (0)	【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1名 職位：助教 所属：名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻
	理学研究科 理学専攻		50 (53)	47 (48)	30 (31)	24 (25)	151 (157)	0 (0)	41 (41)	
分	計		72 (75)	68 (69)	35 (36)	47 (48)	222 (228)	0 (0)	— (—)	
既	人文学研究科 人文学専攻 (博士課程)		39 (39)	48 (48)	1 (1)	3 (3)	91 (91)	0 (0)	45 (45)	【理学研究科理学専攻】 令和3年4月事前相談
	教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士課程)		10 (10)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	8 (8)	
	心理発達科学専攻 (博士課程)		6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
	法学研究科 総合法政専攻 (博士課程)		29 (29)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	39 (39)	1 (1)	11 (11)	
	実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)		11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	

組	経済学研究科 社会経済システム専攻（博士課程）	12 (12)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	1 (1)
	産業経営システム専攻（博士課程）	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	情報学研究科 数理情報学専攻（博士課程）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		複雑系科学専攻（博士課程）	11 (11)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	20 (20)	0 (0)
	社会情報学専攻（博士課程）	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
	心理・認知科学専攻（博士課程）	5 (5)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
	情報システム学専攻（博士課程）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	15 (15)
	知能システム学専攻（博士課程）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	11 (11)
	理学研究科 名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻（博士課程）	50 (53)	47 (48)	30 (31)	25 (26)	152 (158)	0 (0)	0 (0)
		医学系研究科 医科学専攻（修士課程）	27 (27)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)
	総合医学専攻（博士課程）	43 (43)	40 (40)	21 (21)	12 (12)	116 (116)	0 (0)	268 (268)
	名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻（博士課程）	66 (66)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	74 (74)	0 (0)	0 (0)
		名古屋大学・ルンド大学 国際連携総合医学専攻（博士課程）	69 (69)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	79 (79)	0 (0)
	名古屋大学・フライブルク大学 国際連携総合医学専攻（博士課程）	68 (66)	8 (5)	1 (2)	1 (1)	78 (74)	0 (0)	0 (0)
		総合保健学専攻（博士課程）	24 (24)	22 (22)	10 (10)	20 (20)	76 (76)	0 (0)
	工学研究科 有機・高分子化学専攻（博士課程）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	7 (7)	21 (21)	0 (0)	7 (7)
		応用物質化学専攻（博士課程）	5 (5)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	12 (12)	0 (0)
	生命分子工学専攻（博士課程）	4 (4)	6 (6)	1 (1)	6 (6)	17 (17)	0 (0)	3 (3)
	応用物理学専攻（博士課程）	9 (9)	6 (6)	1 (1)	8 (8)	24 (24)	0 (0)	12 (12)
	物質科学専攻（博士課程）	6 (6)	5 (5)	1 (1)	9 (9)	21 (21)	0 (0)	8 (8)
		材料デザイン工学専攻（博士課程）	6 (6)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	13 (13)	0 (0)
	物質プロセス工学専攻（博士課程）	5 (5)	3 (3)	0 (0)	6 (6)	14 (14)	0 (0)	7 (7)
化学システム工学専攻（博士課程）	5 (5)	7 (7)	1 (1)	8 (8)	21 (21)	0 (0)	9 (9)	
電気工学専攻（博士課程）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	11 (11)	0 (0)	16 (16)	
電子工学専攻（博士課程）	6 (6)	5 (5)	0 (0)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	14 (14)	
情報・通信工学専攻（博士課程）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	
織	設							

の 概 要	機械システム工学専攻（博士課程）	9 (9)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	6 (6)	
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻 （博士課程）	4 (4)	6 (6)	1 (1)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	14 (14)	
	航空宇宙工学専攻（博士課程）	5 (5)	4 (4)	1 (1)	6 (6)	16 (16)	0 (0)	8 (8)	
	エネルギー理工学専攻（博士課程）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	4 (4)	
	総合エネルギー工学専攻（博士課程）	5 (5)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	
	土木工学専攻（博士課程）	8 (8)	6 (6)	2 (2)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	19 (19)	
	生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻（博士課程）	7 (7)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	20 (20)	0 (0)	5 (5)	
	植物生産科学専攻（博士課程）	6 (6)	8 (8)	1 (1)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	16 (16)	
	動物科学専攻（博士課程）	5 (5)	6 (6)	2 (2)	6 (6)	19 (19)	0 (0)	10 (10)	
	応用生命科学専攻（博士課程）	13 (13)	12 (12)	9 (9)	6 (6)	40 (40)	0 (0)	16 (16)	
	名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻（博士課程）	48 (48)	44 (44)	14 (14)	26 (26)	132 (132)	0 (0)	0 (0)	
	名古屋大学・西オーストラリア大学 国際連携生命農学専攻（博士課程）	40 (40)	45 (45)	17 (14)	23 (24)	125 (123)	0 (0)	0 (0)	
	国際開発研究科 国際開発協力専攻（博士課程）	9 (9)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	17 (17)	
	多元数理科学研究科 多元数理科学専攻（博士課程）	24 (24)	19 (19)	2 (2)	4 (4)	49 (49)	0 (0)	21 (21)	
	環境学研究科 地球環境科学専攻（博士課程）	13 (13)	12 (12)	2 (2)	5 (5)	32 (32)	0 (0)	32 (32)	
	都市環境学専攻（博士課程）	10 (10)	10 (10)	0 (0)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	11 (11)	
	社会環境学専攻（博士課程）	11 (11)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	4 (4)	
	創薬科学研究科 基盤創薬学専攻（博士課程）	6 (6)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	
	計	510 (513)	397 (398)	107 (105)	223 (224)	1,237 (1,240)	1 (1)	— (—)	
	合 計	516 (519)	407 (408)	109 (107)	228 (229)	1,260 (1,263)	1 (1)	— (—)	
	教員以外の 職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		申請大学全体
		事 務 職 員	666 (666)		1,373 (1,373)		2,039 (2,039)		
		技 術 職 員	1,827 (1,827)		1,529 (1,529)		3,356 (3,356)		
図 書 館 専 門 職 員		49 (49)		— (—)		49 (49)			
そ の 他 の 職 員		— (—)		154 (154)		154 (154)			
計		2,542 (2,542)		3,056 (3,056)		5,598 (5,598)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	申請大学全体			
	校 舎 敷 地		663,614 m ²	0 m ²	0 m ²	663,614 m ²				
	運 動 場 用 地		89,165 m ²	0 m ²	0 m ²	89,165 m ²				
	小 計		752,779 m ²	0 m ²	0 m ²	752,779 m ²				
	そ の 他		2,425,466 m ²	0 m ²	0 m ²	2,425,466 m ²				
合 計		3,178,245 m ²	0 m ²	0 m ²	3,178,245 m ²					
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	申請大学全体			
			485,060 m ² (463,980 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	485,060 m ² (463,980 m ²)				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請大学全体			
	248 室		89 室	1,225 室	27 室 (補助職員 1人)	10 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数					
			工学研究科名古屋大学・チュラロン コン大学国際連携サステイナブル材 料工学専攻		84 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	工学研究科名古屋大 学・チュラロンコン 大学国際連携サステ イナブル材料工学専 攻		193,421 [110,654] (193,421 [110,654])	2,716 [1,490] (2,716 [1,490])	265 [243] (265 [243])	378 (378)	1,093 (1,093)	0 (0)		
	計		193,421 [110,654] (193,421 [110,654])	2,716 [1,490] (2,716 [1,490])	265 [243] (265 [243])	378 (378)	1,093 (1,093)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		申請大学全体		
		28,681 m ²		2,173席		3,158,000冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						申請大学全体
		9,236 m ²		弓道場 1か所		プール 25m×7コース				
				陸上競技場 400mトラック		テニスコート 11面				
				野球場 1面		相撲道場 1か所				
				ボクシング練習場 1か所		ゴルフ練習場 1か所				
アーチェリー練習場 1か所				ライフル射撃場 1か所						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							

大学の名称	岐阜大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
<学部>	年	人	年次人	人		倍			
教育学部	4	220	—	970	学士(教育学)	1.04	昭和41年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	定員変更(▲30) 令和2年度学生募集停止
学校教育教員養成課程	4	220	—	970	学士(教育学)	1.04	平成10年度	同上	
特別支援学校教員養成課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成19年度	同上	
地域科学部	4	100	3年次10	420	学士(地域科学)	1.05	平成8年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	地域科学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
地域政策学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	平成18年度	同上	
地域文化学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	—	平成18年度	同上	
医学部	4・6	190	—	980	学士(医学または看護学)	1.00	昭和39年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	定員変更(25) 令和2年度学生募集停止(3年次編入学)
医学科	6	110	—	660	学士(医学)	0.99	昭和39年度	同上	
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.00	平成12年度	同上	
工学部	4	510	3年次30	2,100	学士(工学)	1.03	昭和27年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
社会基盤工学科	4	60	3年次10	260	学士(工学)	1.04	平成14年度	同上	
機械工学科	4	130	3年次10	540	学士(工学)	1.05	平成25年度	同上	
化学・生命工学科	4	150	3年次2	604	学士(工学)	1.03	平成25年度	同上	
電気電子・情報工学科	4	170	3年次8	696	学士(工学)	1.02	平成25年度	同上	
応用生物科学部	4・6	190	3年次10	840	学士(応用生物科学または獣医学)	1.05	平成16年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	平成25年度学生募集停止
応用生命科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.03	平成23年度	同上	
生産環境科学課程	4	80	3年次5	330	学士(応用生物科学)	1.08	平成16年度	同上	
共同獣医学科	6	30	—	180	学士(獣医学)	1.04	平成25年度	同上	
獣医学課程	6	—	—	—	学士(獣医学)	—	平成16年度	同上	
社会システム経営学環	4	30	—	30	学士(経営学)	1.07	令和3年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和3年度新設
大学合計		1,240	3年次50	5,340					

学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度		
<大学院>									
教育学研究科	—	—	—	—	—	—	平成7年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	25	—	50	教職修士(専門職)	1.00	平成20年度	同上	
心理発達支援専攻 (修士課程)	2	10	—	20	教職修士(専門職)	0.95	平成20年度	同上	
総合教科教育専攻 (修士課程)	2	34	—	68	修士(教育学)	1.16	平成25年度	同上	
地域科学研究科	—	—	—	—	—	—	平成13年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
地域政策専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(地域科学)	0.21	平成13年度	同上	
地域文化専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(地域科学)	1.50	平成13年度	同上	
医学系研究科	—	—	—	—	—	—	平成17年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医科学専攻 (博士課程)	4	47	—	188	博士(医学)	0.69	平成14年度	同上	
再生医科学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(再生医科学)	—	平成14年度	同上	平成31年度学生募集停止
看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(看護学)	0.94	平成17年度	同上	
医療者教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(医療者教育学)	1.00	令和2年度	同上	

学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度		
工学研究科	—	—	—	—	—	—	昭和42年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
社会基盤工学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成18年度	同上	平成29年度学生募集停止
生産開発システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成3年度	同上	平成31年度学生募集停止
物質工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成3年度	同上	平成31年度学生募集停止
電子情報システム工学専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成3年度	同上	平成31年度学生募集停止
環境エネルギーシステム専攻 (博士課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成11年度	同上	平成31年度学生募集停止
工学専攻 (博士課程)	3	23	—	69	博士(工学)	1.05	平成31年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学 グワハティ校国際連携統合 機械工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	平成31年度	同上	
岐阜大学・マレーシア 国民大学国際連携材料 科学工学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	1.00	平成31年度	同上	
自然科学技術研究科	—	—	—	—	—	—	平成29年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生命科学・化学専攻 (修士課程)	2	74	—	148	修士(工学または 応用生物科学)	1.34	平成29年度	同上	
生物生産環境科学専攻 (修士課程)	2	42	—	84	修士(応用生物 科学)	1.06	平成29年度	同上	
環境社会基盤工学専攻 (修士課程)	2	29	—	58	修士(工学)	1.18	平成29年度	同上	
物質・ものづくり工学専攻 (修士課程)	2	67	—	134	修士(工学)	1.24	平成29年度	同上	
知能理工学専攻 (修士課程)	2	81	—	162	修士(工学)	1.17	平成29年度	同上	
エネルギー工学専攻 (修士課程)	2	72	—	144	修士(工学)	1.18	平成29年度	同上	

学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次	人		倍			
岐阜大学・インド工科大学 グワハティ校国際連携食 品科学技術専攻 (修士課程)	2	10		20	修士(食品科 学技術)	0.46	平成31年度	同上	
共同獣医学研究科 共同獣医学専攻 (博士課程)	— 4	— 6	— —	— 18	— 博士(獣医学)	— 0.94	平成31年度 平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1 同上	
連合農学研究科 生物生産科学専攻 (博士課程)	— 3	— 7	— —	— 21	— 博士(農学)	— 0.76	平成3年度 平成3年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1 同上	
生物環境科学専攻 (博士課程)	3	5	—	15	博士(農学)	1.00	平成3年度	同上	
生物資源科学専攻 (博士課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.35	平成3年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学 グワハティ校国際連携食 品科学技術専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士(学術)	0.75	平成31年度	同上	
連合獣医学研究科 獣医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(獣医学)	—	平成2年度	同上	平成31年度学生募集停止
連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻 (博士課程)	— 3	— 3	— —	— 9	— 博士(工学ま たは薬科学)	— 0.89	平成19年度 平成19年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1 同上	
医療情報学専攻 (博士課程)	3	3		9		1.00	平成19年度	同上	
研究科合計									
修士課程	—	453	—	906	—	—	—	—	
博士課程	—	106	—	365	—	—	—	—	
専門職学位課程	—	25	—	50	—	—	—	—	

大学の名称	名古屋大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
文学部	4	125	3年次 10人	520	学士（文学）	1.04	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次 10人	520	学士（文学）	1.04	平成8年度	同上	
教育学部	4	65	3年次 10人	280	学士（教育学）	1.09	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次 10人	280	学士（教育学）	1.09	平成9年度	同上	
法学部	4	150	3年次 10人	620	学士（法学）	1.07	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次 10人	620	学士（法学）	1.07	平成9年度	同上	
経済学部	4	205	3年次 10人	840	学士（経済学）	1.04	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
経済学科	4	140	—	560	学士（経済学）	—	昭和24年度	同上	
経営学科	4	65	—	260	学士（経済学）	—	昭和24年度	同上	
学部共通	—	—	3年次 10人	20	学士（経済学）	—	—	同上	
情報文化学部	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
自然情報学科	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	同上	
社会システム情報学科	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	同上	
学部共通	—	—	3年次 —	—	学士（情報文化学）	—	—	同上	
情報学部	4	135	3年次 10人	560	学士（情報学）	1.03	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
自然情報学科	4	38	3年次 4人	160	学士（情報学）	1.04	平成29年度	同上	
人間・社会情報学科	4	38	3年次 4人	160	学士（情報学）	0.97	平成29年度	同上	
コンピュータ科学科	4	59	3年次 2人	240	学士（情報学）	1.05	平成29年度	同上	
理学部	4	270	—	1,080	学士（理学）	1.07	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
数理学科	4	55	—	220	学士（理学）	—	平成7年度	同上	
物理学科	4	90	—	360	学士（理学）	—	昭和24年度	同上	
化学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	昭和24年度	同上	
生命理学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	平成8年度	同上	
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士（理学）	—	平成4年度	同上	
医学部	4・6	307	3年次 5人	1,462	学士（医学） 学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.02	昭和24年度	—	

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
医学科	6	107	3年次 5	662	学士（医学）	1.01	昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	—	800	学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.03	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
工学部	4	680	—	2,720	学士（工学）	1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度	同上	平成29年度より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度	同上	平成29年度より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度	同上	平成29年度より学生募集停止
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度	同上	平成29年度より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度	同上	平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	396	学士（工学）	1.03	平成29年度	同上	
物理工学科	4	83	—	332	学士（工学）	1.02	平成29年度	同上	
マテリアル工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.01	平成29年度	同上	
電気電子情報工学科	4	118	—	472	学士（工学）	1.01	平成29年度	同上	
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	600	学士（工学）	1.01	平成29年度	同上	
エネルギー理工学科	4	40	—	160	学士（工学）	1.06	平成29年度	同上	
環境土木・建築学科	4	80	—	320	学士（工学）	1.02	平成29年度	同上	
農学部	4	170	—	680	学士（農学）	1.07	平成26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.05	平成18年度	同上	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度	同上	
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.08	平成18年度	同上	
合計		2,107	3年次 55 2年次 —	8,762					
文学研究科 人文学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—	平成28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	年	人	年次	人			平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	2	104	—	208	修士(文学) 修士(歴史学)	1.03	平成29年度	同上
	3	61	—	183	修士(学術) 博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	0.62		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 心理発達科学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2	32	—	64	修士(教育学) 修士(教育)	0.79	昭和28年度 (平成12年度名称変更) 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	3	16	—	48	博士(教育学) 博士(教育)	0.82		同上
	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.95	平成12年度	同上
	3	15	—	45	博士(心理学)	0.93		
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.85	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.50		同上
	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.73	平成16年度	同上
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程) (博士後期課程) 産業経営システム専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.93	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	3	15	—	45	博士(経済学)	0.41		同上
	2	14	—	28	修士(経済学)	0.63	平成12年度	同上
	3	7	—	21	博士(経済学)	0.42		

既設大学等の状況

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次	人		倍		
情報学研究科							平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1
数理情報学専攻							平成29年度	同上
(博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学)	1.17		
(博士後期課程)	3	4	—	12	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(情報学)	0.50		
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(学術)			
複雑系科学専攻							平成29年度	同上
(博士前期課程)	2	36	—	72	修士(情報学)	1.23		
(博士後期課程)	3	8	—	24	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(情報学)	0.70		
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(学術)			
社会情報学専攻							平成29年度	同上
(博士前期課程)	2	18	—	36	修士(情報学)	0.97		
(博士後期課程)	3	5	—	15	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(情報学)	0.40		
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(学術)			
心理・認知科学専攻							平成29年度	同上
(博士前期課程)	2	15	—	30	修士(情報学)	0.83		
(博士後期課程)	3	7	—	21	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(情報学)	0.90		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(学術)			
情報システム学専攻							平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1
(博士前期課程)	2	32	—	64	修士(情報学)	1.06		
(博士後期課程)	3	9	—	27	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(情報学)	0.29		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(学術)			
知能システム学専攻							平成29年度	同上
(博士前期課程)	2	29	—	58	修士(情報学)	1.47		
(博士後期課程)	3	10	—	30	修士(学術)			
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(情報学)	1.50		
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(学術)			
理学研究科							平成28年度	愛知県名古屋千種区不老町1
素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度	同上
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.05		
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.66		
物質物理学専攻							平成7年度	同上
(博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.23		
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士(理学)	0.79		
生命理学専攻							平成8年度	同上
(博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.05		
(博士後期課程)	3	18	—	54	博士(理学)	0.40		

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.16	平成28年度	同上	
医学系研究科							昭和30年度 (平成14年度名称変更)	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
総合医学専攻 (博士課程)	4	151	—	604	博士(医学)	1.09	平成25年度	同上	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.18	平成27年度	同上	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.12	平成29年度	同上	
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士(医学)	0.00	平成30年度	同上	
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	0.77	平成13年度	同上	
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	0.90			
総合保健学専攻 (博士前期課程)	2	70	—	140	修士(看護学)	0.87	令和2年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
					修士(医療技術学)				
					修士(リハビリテーション療法学)				
(博士後期課程)	3	20	—	40	博士(看護学)	0.87			
					博士(医療技術学)				
					博士(リハビリテーション療法学)				
看護学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(看護学)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(看護学)	—			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(医療技術学)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(医療技術学)	—			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(リハビリテーション療法学)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(リハビリテーション療法学)	—			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
化学・生物工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より 学生募集停止
マテリアル理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より 学生募集停止
機械理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より 学生募集停止
社会基盤工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より 学生募集停止
結晶材料工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	昭和52年度 (平成16年度再編)	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より 学生募集停止
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より 学生募集停止
計算理工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成9年度 (平成16年度再編)	同上	平成29年度より 学生募集停止
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	博士(工学)	1.02	平成29年度	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.95			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	0.98	平成29年度	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.58			
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	0.99	平成29年度	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.71			
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	1.11	平成29年度	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.47			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次	人		倍		
物質科学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	39	—	78	修士（工学）	0.92		
（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（工学）	0.33		
材料デザイン工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	34	—	68	修士（工学）	0.99		
（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	0.16		
物質プロセス工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	35	—	70	修士（工学）	1.15		
（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（工学）	1.14		
化学システム工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	34	—	68	修士（工学）	1.23		
（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	1.24		
電気工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	34	—	68	修士（工学）	1.36		
（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（工学）	0.80		
電子工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	47	—	94	修士（工学）	1.25		
（博士後期課程）	3	13	—	39	博士（工学）	0.96		
情報・通信工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	33	—	66	修士（工学）	1.21		
（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	0.70		
機械システム工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	66	—	132	修士（工学）	1.34		
（博士後期課程）	3	14	—	42	博士（工学）	0.52		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	36	—	72	修士（工学）	1.33		
（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	0.74		
航空宇宙工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	38	—	76	修士（工学）	1.43		
（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	0.87		
エネルギー理工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（工学）	1.11		
（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（工学）	0.60		
総合エネルギー工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（工学）	1.10		
（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.58		
土木工学専攻							平成29年度	同上
（博士前期課程）	2	39	—	72	修士（工学）	0.98		
（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（工学）	0.81		

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
生命農学研究科							昭和30年度 (平成9年度名称変更)	愛知県名古屋市千種区不老町1	
生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—		修士(農学)	—	平成11年度	同上	平成30年度より 学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—		博士(農学)	—			
生物機構・機能科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—		博士(農学)	—	平成9年度	同上	平成30年度より 学生募集停止
生命技術科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—		博士(農学)	—	平成16年度	同上	平成30年度より 学生募集停止
森林・環境資源科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(農学)	1.16	平成30年度	同上	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(農学)	0.99			
植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(農学)	1.23	平成30年度	同上	
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.03	平成30年度	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.75			
応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(農学)	1.08	平成30年度	同上	
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(農学)	0.47			
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6		0.66	平成30年度	同上	
名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6		0.50	平成31年度	同上	
国際開発研究科							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—		修士(国際開発学)	—	平成3年度	同上	平成30年度より 学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—		修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—		修士(国際開発学)	—	平成4年度	同上	平成30年度より 学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—		修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—			
国際コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—	平成5年度	同上	平成29年度より 学生募集停止

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
国際開発協力専攻 (博士前期課程)	2	44	—	88	修士(国際開発学)	0.93	平成30年度	同上	
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.71			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.55	平成7年度	同上	
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋千種区不老町1 同上	平成29年度より 学生募集停止
国際多元文化専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度	同上	
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.84	平成13年度 平成13年度	愛知県名古屋千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	24	—	72	博士(環境学) 博士(理学)	0.39			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.25	平成13年度	同上	
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.37			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学)	0.81	平成13年度	同上	
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.50			

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度	同上	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平成15年度		
複雑系科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平成15年度		
社会システム情報学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平成15年度		
創薬科学研究科							平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.10	平成24年度	同上	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	1.00	平成26年度		

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次	人		倍		
合計								
博士前期課程		1,626		3,252				
博士後期課程		571		1,710				
博士課程		161		644				
修士課程		30		50				
専門職学位課程		50		150				
<p> 名 称 : 教育学部附属中・高等学校 目的 : 中学校教育、高等学校教育及び研究 所在地 : 愛知県名古屋市千種区不老町1 設置年月 : 昭和27年4月 規模等(延面積) : 11,932㎡ </p> <p> 名 称 : 医学部附属病院 目的 : 医学の研究、教育及び診療 所在地 : 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 設置年月 : 昭和24年5月 規模等(延面積) : 106,681㎡ </p> <p> 名 称 : 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター 東郷フィールド 目的 : 生命農学の研究及び教育 所在地 : 愛知県東郷町大字諸輪字畑尻94 設置年月 : 昭和27年4月 規模等(敷地面積) : 283,731㎡ </p> <p> 名 称 : 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター 稲武・設楽フィールド(稲武) 目的 : 生命農学の研究及び教育 所在地 : 愛知県豊田市稲武町大井平道下5-1 設置年月 : 昭和30年4月 規模等(敷地面積) : 1,440,563㎡ </p> <p> 名 称 : 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター 稲武・設楽フィールド(設楽) 目的 : 生命農学の研究及び教育 所在地 : 愛知県北設楽郡設楽町東納庫字向山6-1 設置年月 : 昭和34年4月 規模等(敷地面積) : 158,950㎡ </p> <p> 名 称 : 情報基盤センター 目的 : 情報化推進のための実践的調査研究及び情報技術支援 所在地 : 愛知県名古屋市千種区不老町1 設置年月 : 平成21年4月 規模等(延面積) : 4,234㎡ </p> <p> 名 称 : 環境医学研究所 目的 : 教育及び研究 所在地 : 愛知県名古屋市千種区不老町1 設置年月 : 昭和21年3月 規模等(延面積) : 7,940㎡ </p> <p> 名 称 : 未来材料・システム研究所 目的 : 教育及び研究 所在地 : 愛知県名古屋市千種区不老町1 設置年月 : 平成27年10月 規模等(延面積) : 16,666㎡ </p> <p> 名 称 : 宇宙地球環境研究所 目的 : 教育及び研究 所在地 : 愛知県名古屋市千種区不老町1 設置年月 : 平成27年10月 規模等(延面積) : 9,933㎡ </p>								

附属施設の概要

名称	: アイソトープ総合センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 昭和51年5月
規模等 (延面積)	: 2,606㎡
名称	: 遺伝子実験施設
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 昭和59年4月
規模等 (延面積)	: 1,953㎡
名称	: 物質科学国際研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成10年4月
規模等 (延面積)	: 7,804㎡
名称	: 高等教育研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成10年4月
規模等 (延面積)	: 405㎡
名称	: 農学国際教育研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成11年4月
規模等 (延面積)	: 510㎡
名称	: 博物館
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成12年4月
規模等 (延面積)	: 2,812㎡
名称	: 心の発達支援研究実践センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成27年4月
規模等 (延面積)	: 581㎡
名称	: 法政国際教育協力研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成14年4月
規模等 (延面積)	: 2,149㎡
名称	: 生物機能開発利用研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成15年4月
規模等 (延面積)	: 2,619㎡
名称	: シンクロトロン光研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成19年4月
規模等 (延面積)	: 502㎡
名称	: 減災連携研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成24年1月
規模等 (延面積)	: 2,811㎡
名称	: 細胞生理学研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成24年4月
規模等 (延面積)	: 502㎡
名称	: 脳とこころの研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
設置年月	: 平成25年12月
規模等 (延面積)	: 482㎡
名称	: ナショナルコンポジットセンター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋市千種区不老町1
設置年月	: 平成26年1月
規模等 (延面積)	: 2,337㎡

名称	: 予防早期医療創成センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成27年7月
規模等(延面積)	: 397㎡
名称	: 男女共同参画センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成29年7月
規模等(延面積)	: 899㎡
名称	: 低温プラズマ科学研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成31年4月
規模等(延面積)	: 2,093㎡
名称	: 糖鎖生命コア研究所統合生命医科学糖鎖研究センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 令和3年1月
規模等(延面積)	: 220㎡
名称	: 総合保健体育科学センター
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 昭和50年4月
規模等(延面積)	: 2,304㎡
名称	: トランスフォーマティブ生命分子研究所
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成25年4月
規模等(延面積)	: 7,174㎡
名称	: 素粒子宇宙起源研究所
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成22年4月
規模等(延面積)	: 1,173㎡
名称	: 未来社会創造機構
目的	: 教育及び研究
所在地	: 愛知県名古屋千種区不老町1
設置年月	: 平成26年1月
規模等(延面積)	: 6,521㎡

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(岐阜大学)

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岐阜大学				岐阜大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	220	—	880	学校教育教員養成課程	220	—	880	
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科(6年制)	110	—	510	医学科(6年制)	85	—	510	臨時定員増終了による定員変更(△25)
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
工学部		3年次		工学部		3年次		
社会基盤工学科	68	10	292	社会基盤工学科	68	10	292	
機械工学科	134	10	556	機械工学科	134	10	556	
化学・生命工学科	154	2	620	化学・生命工学科	154	2	620	
電気電子・情報工学科	174	8	712	電気電子・情報工学科	174	8	712	
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命科学課程	85	5	350	応用生命科学課程	85	5	350	
生産環境科学課程	85	5	350	生産環境科学課程	85	5	350	
共同獣医学科(6年制)	30	—	180	共同獣医学科(6年制)	30	—	180	
社会システム経営学環	30	—	120	社会システム経営学環	30	—	120	
計	1,240	50	5,190	計	1,215	50	5,190	
岐阜大学大学院				岐阜大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	25	—	50	教職実践開発専攻(P)	0	—	0	令和4年学生募集停止
心理発達支援専攻(M)	10	—	20	心理発達支援専攻(M)	0	—	0	令和4年学生募集停止
総合教科教育専攻(M)	34	—	68	総合教科教育専攻(M)	0	—	0	令和4年学生募集停止
				教職実践開発専攻(P)	40	—	80	研究科の専攻の設置(設置届出)
				教職臨床心理学専攻(M)	5	—	10	研究科の専攻の設置(設置届出)
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻(M)	12	—	24	地域政策専攻(M)	12	—	24	
地域文化専攻(M)	8	—	16	地域文化専攻(M)	8	—	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(4年制D)	47	—	188	医科学専攻(4年制D)	47	—	188	
看護学専攻(M)	8	—	16	看護学専攻(M)	8	—	16	
医療者教育学専攻(M)	6	—	12	医療者教育学専攻(M)	6	—	12	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻(D)	23	—	69	工学専攻(D)	23	—	69	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	
岐阜大学・マレーシア国民大学				岐阜大学・マレーシア国民大学				
国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	
生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	
環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	
物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	
知能理工学専攻(M)	81	—	162	知能理工学専攻(M)	81	—	162	
エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	7	—	21	生物生産科学専攻(D)	7	—	21	
生物環境科学専攻(D)	5	—	15	生物環境科学専攻(D)	5	—	15	
生物資源科学専攻(D)	6	—	18	生物資源科学専攻(D)	6	—	18	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻(D)	3	—	9	創薬科学専攻(D)	3	—	9	
医療情報学専攻(D)	3	—	9	医療情報学専攻(D)	3	—	9	
計	584	—	1,327	計	560	—	1,279	

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(名古屋大学)

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部 人文学科	125	3年次 10	520	文学部 人文学科	125	3年次 10	520	
教育学部 人間発達科学科	65	3年次 10	280	教育学部 人間発達科学科	65	3年次 10	280	
法学部 法律・政治学科	150	3年次 10	620	法学部 法律・政治学科	150	3年次 10	620	
経済学部 経済学科	140	3年次 —	560	経済学部 経済学科	140	3年次 —	560	
経営学科	65	—	260	経営学科	65	—	260	
学部共通	—	10	20	学部共通	—	10	20	
情報学部 自然情報学科	38	3年次 4	160	情報学部 自然情報学科	38	3年次 4	160	
人間・社会情報学科	38	4	160	人間・社会情報学科	38	4	160	
コンピュータ科学科	59	2	240	コンピュータ科学科	59	2	240	
理学部 数理学科	55	—	220	理学部 数理学科	55	—	220	
物理学科	90	—	360	物理学科	90	—	360	
化学科	50	—	200	化学科	50	—	200	
生命理学科	50	—	200	生命理学科	50	—	200	
地球惑星科学科	25	—	100	地球惑星科学科	25	—	100	
医学部 医学科(6年制)	107	3年次 5	662	医学部 医学科(6年制)	100	2年次 4	620	入学定員変更(△7) 編入学定員変更(△1) 編入学を2年次に変更
保健学科	200	—	800	保健学科	200	—	800	
工学部 化学生命工学科	99	—	396	工学部 化学生命工学科	99	—	396	
物理工学科	83	—	332	物理工学科	83	—	332	
マテリアル工学科	110	—	440	マテリアル工学科	110	—	440	
電気電子情報工学科	118	—	472	電気電子情報工学科	118	—	472	
機械・航空宇宙工学科	150	—	600	機械・航空宇宙工学科	150	—	600	
エネルギー理工学科	40	—	160	エネルギー理工学科	40	—	160	
環境土木・建築学科	80	—	320	環境土木・建築学科	80	—	320	
農学部 生物環境科学科	35	—	140	農学部 生物環境科学科	35	—	140	
資源生物科学科	55	—	220	資源生物科学科	55	—	220	
応用生命科学科	80	—	320	応用生命科学科	80	—	320	
合計	2,107	55	8,762	合計	2,100	54	8,720	
名古屋大学大学院				名古屋大学大学院				
人文学研究科 人文学専攻(M)	104	—	208	人文学研究科 人文学専攻(M)	104	—	208	
人文学専攻(D)	61	—	183	人文学専攻(D)	61	—	183	
教育発達科学研究科 教育科学専攻(M)	32	—	64	教育発達科学研究科 教育科学専攻(M)	32	—	64	
教育科学専攻(D)	16	—	48	教育科学専攻(D)	16	—	48	
心理発達科学専攻(M)	22	—	44	心理発達科学専攻(M)	22	—	44	
心理発達科学専攻(D)	15	—	45	心理発達科学専攻(D)	15	—	45	
法学研究科 総合法政専攻(M)	35	—	70	法学研究科 総合法政専攻(M)	35	—	70	
総合法政専攻(D)	17	—	51	総合法政専攻(D)	17	—	51	
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	—	150	実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	—	150	
経済学研究科 社会経済システム専攻(M)	30	—	60	経済学研究科 社会経済システム専攻(M)	30	—	60	
社会経済システム専攻(D)	15	—	45	社会経済システム専攻(D)	15	—	45	
産業経営システム専攻(M)	14	—	28	産業経営システム専攻(M)	14	—	28	
産業経営システム専攻(D)	7	—	21	産業経営システム専攻(D)	7	—	21	
情報学研究科 数理情報学専攻(M)	14	—	28	情報学研究科 数理情報学専攻(M)	14	—	28	
数理情報学専攻(D)	4	—	12	数理情報学専攻(D)	4	—	12	
複雑系科学専攻(M)	36	—	72	複雑系科学専攻(M)	36	—	72	
複雑系科学専攻(D)	8	—	24	複雑系科学専攻(D)	8	—	24	
社会情報学専攻(M)	18	—	36	社会情報学専攻(M)	18	—	36	
社会情報学専攻(D)	5	—	15	社会情報学専攻(D)	5	—	15	
心理・認知科学専攻(M)	15	—	30	心理・認知科学専攻(M)	15	—	30	
心理・認知科学専攻(D)	7	—	21	心理・認知科学専攻(D)	7	—	21	
情報システム学専攻(M)	32	—	64	情報システム学専攻(M)	32	—	64	
情報システム学専攻(D)	9	—	27	情報システム学専攻(D)	9	—	27	
知能システム学専攻(M)	29	—	58	知能システム学専攻(M)	29	—	58	
知能システム学専攻(D)	10	—	30	知能システム学専攻(D)	10	—	30	

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
理学研究科				理学研究科				
				理学専攻(M)	188	—	376	研究科の専攻の設置(設置届出)
				理学専攻(D)	70	—	210	研究科の専攻の設置(設置届出)
素粒子宇宙物理学専攻(M)	66	—	132		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
素粒子宇宙物理学専攻(D)	30	—	90		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
物質物理学専攻(M)	63	—	126		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
物質物理学専攻(D)	22	—	66		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
生命物理学専攻(M)	42	—	84		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
生命物理学専攻(D)	18	—	54		0	—	0	令和4年4月学生募集停止
名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	—	6	名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	—	6	
医学系研究科				医学系研究科				
総合医学専攻(D)	151	—	604	総合医学専攻(D)	151	—	604	
名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16	名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16	
名古屋大学・ルンド大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16	名古屋大学・ルンド大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16	
名古屋大学・フライブルク大 学国際連携総合医学専攻(D)	2	—	8	名古屋大学・フライブルク大 学国際連携総合医学専攻(D)	2	—	8	
医科学専攻(修士課程)	20	—	40	医科学専攻(修士課程)	20	—	40	
医科学専攻医療行政コース	10	—	10	医科学専攻医療行政コース	10	—	10	
総合保健学専攻(M)	70	—	140	総合保健学専攻(M)	70	—	140	
総合保健学専攻(D)	20	—	60	総合保健学専攻(D)	20	—	60	
工学研究科				工学研究科				
有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68	有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68	
有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24	有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24	
応用物質化学専攻(M)	34	—	68	応用物質化学専攻(M)	34	—	68	
応用物質化学専攻(D)	8	—	24	応用物質化学専攻(D)	8	—	24	
生命分子工学専攻(M)	28	—	56	生命分子工学専攻(M)	28	—	56	
生命分子工学専攻(D)	6	—	18	生命分子工学専攻(D)	6	—	18	
応用物理学専攻(M)	39	—	78	応用物理学専攻(M)	39	—	78	
応用物理学専攻(D)	9	—	27	応用物理学専攻(D)	9	—	27	
物質科学専攻(M)	39	—	78	物質科学専攻(M)	39	—	78	
物質科学専攻(D)	9	—	27	物質科学専攻(D)	9	—	27	
材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68	材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68	
材料デザイン工学専攻(D)	8	—	24	材料デザイン工学専攻(D)	6	—	18	定員変更(△2)
物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70	物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70	
物質プロセス工学専攻(D)	9	—	27	物質プロセス工学専攻(D)	8	—	24	定員変更(△1)
化学システム工学専攻(M)	34	—	68	化学システム工学専攻(M)	34	—	68	
化学システム工学専攻(D)	8	—	24	化学システム工学専攻(D)	6	—	18	定員変更(△2)
電気工学専攻(M)	34	—	68	電気工学専攻(M)	34	—	68	
電気工学専攻(D)	9	—	27	電気工学専攻(D)	9	—	27	
電子工学専攻(M)	47	—	94	電子工学専攻(M)	47	—	94	
電子工学専攻(D)	13	—	39	電子工学専攻(D)	13	—	39	
情報・通信工学専攻(M)	33	—	66	情報・通信工学専攻(M)	33	—	66	
情報・通信工学専攻(D)	8	—	24	情報・通信工学専攻(D)	8	—	24	
機械システム工学専攻(M)	66	—	132	機械システム工学専攻(M)	66	—	132	
機械システム工学専攻(D)	14	—	42	機械システム工学専攻(D)	14	—	42	
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(M)	36	—	72	マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(M)	36	—	72	
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(D)	8	—	24	マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(D)	8	—	24	
航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76	航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76	
航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24	航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24	
エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36	エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36	
エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15	エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15	
総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36	総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36	
総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12	総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12	
土木工学専攻(M)	36	—	72	土木工学専攻(M)	36	—	72	
土木工学専攻(D)	9	—	27	土木工学専攻(D)	9	—	27	
				名古屋大学・テュロロンコン 大学国際連携サステイナ ブル材料工学専攻	5	—	15	研究科の専攻の設置 (意見伺い)
生命農学研究科				生命農学研究科				
森林・資材科学専攻(M)	27	—	54	森林・資材科学専攻(M)	27	—	54	
森林・資材科学専攻(D)	6	—	18	森林・資材科学専攻(D)	6	—	18	
植物生産科学専攻(M)	30	—	60	植物生産科学専攻(M)	30	—	60	
植物生産科学専攻(D)	9	—	27	植物生産科学専攻(D)	9	—	27	
動物科学専攻(M)	28	—	56	動物科学専攻(M)	28	—	56	
動物科学専攻(D)	7	—	21	動物科学専攻(D)	7	—	21	
応用生命科学専攻(M)	66	—	132	応用生命科学専攻(M)	66	—	132	
応用生命科学専攻(D)	16	—	48	応用生命科学専攻(D)	16	—	48	
名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻(D)	2	—	6	名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻(D)	2	—	6	
名古屋大学・西オーストラリ ア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6	名古屋大学・西オーストラリ ア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6	
国際開発研究科				国際開発研究科				
国際開発協力専攻(M)	44	—	88	国際開発協力専攻(M)	44	—	88	
国際開発協力専攻(D)	22	—	66	国際開発協力専攻(D)	22	—	66	
多元数理科学研究科				多元数理科学研究科				
多元数理科学専攻(M)	47	—	94	多元数理科学専攻(M)	47	—	94	
多元数理科学専攻(D)	30	—	90	多元数理科学専攻(D)	30	—	90	
環境学研究科				環境学研究科				
地球環境科学専攻(M)	53	—	106	地球環境科学専攻(M)	53	—	106	
地球環境科学専攻(D)	24	—	72	地球環境科学専攻(D)	24	—	72	
都市環境学専攻(M)	47	—	94	都市環境学専攻(M)	47	—	94	
都市環境学専攻(D)	21	—	63	都市環境学専攻(D)	21	—	63	

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
社会環境学専攻(M)	27	—	54	社会環境学専攻(M)	27	—	54	
社会環境学専攻(D)	13	—	39	社会環境学専攻(D)	13	—	39	
創薬科学研究科				創薬科学研究科				
基盤創薬学専攻(M)	32	—	64	基盤創薬学専攻(M)	32	—	64	
基盤創薬学専攻(D)	10	—	30	基盤創薬学専攻(D)	10	—	30	
合計	2,438	—	5,809	合計	2,455	—	5,843	

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員				助手に相当する教員
専門科目	博士論文研究ⅠA		1前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	博士論文研究ⅡA		1後	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	博士論文研究ⅢA		2前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	博士論文研究ⅣA		2後	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	博士論文研究ⅤA		3前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	博士論文研究ⅥA		3後	名古屋大学		3				○	22	21	5	23	0	71						0	71	
	サステイナブル材料システム特別講義		1・2通	名古屋大学		2		○			1				0	1						0	1	
	小計（7科目）		—			0	50	0		—	22	21	5	23	0	71	0	0	0	0	0	0	0	71
専門科目	博士論文研究ⅠB		1前	チュラロンコン大学		9				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	博士論文研究ⅡB		1後	チュラロンコン大学		9				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	博士論文研究ⅢB		2前	チュラロンコン大学		9				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	博士論文研究ⅣB		2後	チュラロンコン大学		9				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	博士論文研究ⅤB		3前	チュラロンコン大学		9				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	博士論文研究ⅥB		3後	チュラロンコン大学		3				○					0	10	31	25	20	0	86	86		
	サステイナブル材料科学特別講義		1・2通	チュラロンコン大学		2		○			0				0	1					0	1	1	
	小計（7科目）		—			0	50	0		—	0	0	0	0	0	0	10	31	25	20	0	86	86	
（研究指導）			1-3通	名古屋大学・チュラロンコン大学					—	22	21	5	23	0	71	10	31	25	20	0	86	157		
合計（14科目）			—			100	0		—	22	21	5	23	0	71	10	31	25	20	0	86	157		
学位又は称号	博士（工学）（Doctor of Philosophy）			学位又は学科の分野					工学関係															

卒業要件及び履修方法	開設大学等	開設単位数(必修)	授業期間等	
<p>(国際連携サステイナブル材料工学専攻の修了要件) 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。</p> <p>・名古屋大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠA、ⅡA、VA、VIA及びサステイナブル材料システム特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢB、ⅣB及びサステイナブル材料科学特別講義の合計52単位を修得する。</p> <p>(連携外国大学の修了要件) 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。</p> <p>・チュラロンコン大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠB、ⅡB、VB、VIB及びサステイナブル材料科学特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢA、ⅣA及びサステイナブル材料システム特別講義の合計52単位を修得する。</p> <p>※上記に加え、英語試験で一定以上の点数の獲得を必要とする。</p>	名古屋大学	50 (0)	1 学年の学期区分	2学期
	チュラロンコン大学	50 (0)	1 学期の授業期間	15週
	共同開設科目	0 (0)	1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その2の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）																							
（工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）（名古屋大学）																							
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当員	准教授に相当員	講師に相当員	助教に相当員			
専門科目	博士論文研究ⅠA		1前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	博士論文研究ⅡA		1後	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	博士論文研究ⅢA		2前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	博士論文研究ⅣA		2後	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	博士論文研究ⅤA		3前	名古屋大学		9				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	博士論文研究ⅥA		3後	名古屋大学		3				○	22	21	5	23	0	71					0	71	
	サステイナブル材料システム特別講義		1・2通	名古屋大学		2			○		1				0	1					0	1	
小計（7科目）			—		0	50	0		—	22	21	5	23	0	71	0	0	0	0	0	0	71	
(研究指導)			1-3通	名古屋大学					—	22	21	5	23	0	71							71	
合計（7科目）			—		0	50	0		—	22	21	5	23	0	71	0	0	0	0	0	0	71	
学位又は称号	博士（工学）（Doctor of Philosophy）			学位又は学科の分野			工学関係																
卒業要件及び履修方法				開設大学等		開設単位数（必修）		授業期間等															
（国際連携サステイナブル材料工学専攻の修了要件） 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 ・名古屋大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠA、ⅡA、ⅤA、ⅥA及びサステイナブル材料システム特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢB、ⅣB及びサステイナブル材料科学特別講義の合計52単位を修得する。 （連携外国大学の修了要件） 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 ・チュラロンコン大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠB、ⅡB、ⅤB、ⅥB及びサステイナブル材料科学特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢA、ⅣA及びサステイナブル材料システム特別講義の合計52単位を修得する。 ※上記に加え、英語試験で一定以上の点数の獲得を必要とする。				名古屋大学		50 (0)		1 学年の学期区分				2 学期											
								1 学期の授業期間				15 週											
								1 時限の授業時間				90 分											

（注）

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）																								
（工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）（チュラロンコン大学）																								
科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						小計	合計	
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当員	准教授に相当員	講師に相当員	助教に相当員				助手に相当員
専門科目	博士論文研究ⅠB		1前	チュラロンコン大学		9					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	博士論文研究ⅡB		1後	チュラロンコン大学		9					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	博士論文研究ⅢB		2前	チュラロンコン大学		9					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	博士論文研究ⅣB		2後	チュラロンコン大学		9					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	博士論文研究ⅤB		3前	チュラロンコン大学		9					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	博士論文研究ⅥB		3後	チュラロンコン大学		3					○						0	10	31	25	20	0	86	86
	サステイナブル材料科学特別講義		1・2通	チュラロンコン大学		2			○								0		1			0	1	1
小計（7科目）			—		0	50	0			—		0	0	0	0	0	0	10	31	25	20	0	86	86
(研究指導)			1-3通	チュラロンコン大学						—								10	31	25	20	0	86	86
合計（7科目）			—		0	50	0			—		0	0	0	0	0	0	10	31	25	20	0	86	86
学位又は称号	博士（工学）（Doctor of Philosophy）			学位又は学科の分野			工学関係																	
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）		授業期間等																		
（国際連携サステイナブル材料工学専攻の修了要件） 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 ・名古屋大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠA、ⅡA、ⅤA、ⅥA及びサステイナブル材料システム特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢB、ⅣB及びサステイナブル材料科学特別講義の合計52単位を修得する。 （連携外国大学の修了要件） 原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って52単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 ・チュラロンコン大学を主大学とする学生は、主大学が開講する博士論文研究ⅠB、ⅡB、ⅤB、ⅥB及びサステイナブル材料科学特別講義、副大学が開講する博士論文研究ⅢA、ⅣA及びサステイナブル材料システム特別講義の合計52単位を修得する。 ※上記に加え、英語試験で一定以上の点数の獲得を必要とする。				チュラロンコン大学			50 (0)		1学年の学期区分					2学期										
				チュラロンコン大学			50 (0)		1学期の授業期間					15週										
									1時限の授業時間					90分										

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科有機・高分子化学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	有機化学セミナー 2A	1前		2			○		3	2	1	3		兼2
	有機化学セミナー 2B	1後		2			○		3	2	1	3		兼2
	有機化学セミナー 2C	2前		2			○		3	2	1	3		兼2
	有機化学セミナー 2D	2後		2			○		3	2	1	3		兼2
	有機化学セミナー 2E	3前		2			○		3	2	1	3		兼2
	高分子化学セミナー 2A	1前		2			○		3	3	2	1		
	高分子化学セミナー 2B	1後		2			○		3	3	2	1		
	高分子化学セミナー 2C	2前		2			○		3	3	2	1		
	高分子化学セミナー 2D	2後		2			○		3	3	2	1		
	高分子化学セミナー 2E	3前		2			○		3	3	2	1		
	小計 (10科目)	—	0	20	0		—		6	5	3	4	0	
総合工学科目	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		6					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		6					
	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		6					
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2				○						兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3				○						兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4				○						兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6				○						兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8				○						兼1
	研究室ローテーション2 U2	1・2前・後		2				○	6					
	研究室ローテーション2 U3	1・2前・後		3				○	6					
	研究室ローテーション2 U4	1・2前・後		4				○	6					
	研究室ローテーション2 U6	1・2前・後		6				○	6					
	研究室ローテーション2 U8	1・2前・後		8				○	6					
	実験指導体験実習1	1・2前・後		1				○						兼1
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1				○						兼1
	小計 (15科目)	—	0	56	0		—		6	0	0	0	0	
(研究指導)		—		—			—		6	5	0	0	0	
合計 (25科目)		—	0	76	0		—		6	5	3	4	0	
学位又は称号	博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目で既修のものを除いた中から8単位以上 ただし、以下のイ～ハを満たすこと イ 上記に掲げた専門科目のセミナー科目から4単位以上 ロ 他専攻等科目から2単位以上を修得すること ハ 総合工学科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う							1 学年の学期区分				2 学期			
							1 学期の授業期間				15週			
							1 時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科応用物質化学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	応用物理化学セミナー 2A	1前		2			○		3	1	1	3		兼1
	応用物理化学セミナー 2B	1後		2			○		3	1	1	3		兼1
	応用物理化学セミナー 2C	2前		2			○		3	1	1	3		兼1
	応用物理化学セミナー 2D	2後		2			○		3	1	1	3		兼1
	応用物理化学セミナー 2E	3前		2			○		3	1	1	3		兼1
	固体化学セミナー 2A	1前		2			○		2			2		兼7
	固体化学セミナー 2B	1後		2			○		2			2		兼7
	固体化学セミナー 2C	2前		2			○		2			2		兼7
	固体化学セミナー 2D	2後		2			○		2			2		兼7
	固体化学セミナー 2E	3前		2			○		2			2		兼7
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		5					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		5					
小計 (12科目)	—		0	26	0		—	5	1	1	5	0		
総合工学科目	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		5					兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		6			○							兼1
	研究室ローテーション2 U2	1・2前・後		8			○		5					
	研究室ローテーション2 U3	1・2前・後		2			○		5					
	研究室ローテーション2 U4	1・2前・後		3			○		5					
	研究室ローテーション2 U6	1・2前・後		4			○		5					
	研究室ローテーション2 U8	1・2前・後		6			○		5					
	実験指導体験実習1	1・2前・後		8			○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1			○							兼1
小計 (13科目)	—		0	51	0		—	5	0	0	0	0		
(研究指導)								5	1	0	0	0		
合計 (25科目)					77			5	1	1	5	0		
学位又は称号		博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目で既修のものを除いた中から8単位以上 ただし、以下のイ～ハを満たすこと イ 上記に掲げた専門科目のセミナー科目から4単位以上 ロ 他専攻等科目から2単位以上を修得すること ハ 総合工学科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う								1 学年の学期区分				2 学期		
								1 学期の授業期間				15週		
								1 時限の授業時間				90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科生命分子工学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	分子生命化学セミナー 2A	1前		2			○		1	1			2		兼3
	分子生命化学セミナー 2B	1後		2			○		1	1			2		兼3
	分子生命化学セミナー 2C	2前		2			○		1	1			2		兼3
	分子生命化学セミナー 2D	2後		2			○		1	1			2		兼3
	分子生命化学セミナー 2E	3前		2			○		1	1			2		兼3
	生命システム工学セミナー 2A	1前		2			○		3	2	1		2		
	生命システム工学セミナー 2B	1後		2			○		3	2	1		2		
	生命システム工学セミナー 2C	2前		2			○		3	2	1		2		
	生命システム工学セミナー 2D	2後		2			○		3	2	1		2		
	生命システム工学セミナー 2E	3前		2			○		3	2	1		2		
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2				○		4					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4				○		4					
	小計 (12科目)	—		26				—		4	6	1	4	0	
総合工学科目	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		4						兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2				○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3				○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4				○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6				○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8				○							兼1
	研究室ローテーション2 U2	1・2前・後		2				○	4						
	研究室ローテーション2 U3	1・2前・後		3				○	4						
	研究室ローテーション2 U4	1・2前・後		4				○	4						
	研究室ローテーション2 U6	1・2前・後		6				○	4						
	研究室ローテーション2 U8	1・2前・後		8				○	4						
	実験指導体験実習1	1・2前・後		1				○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1				○							兼1
小計 (13科目)	—		50				—		4	0	0	0	0		
(研究指導)			—	—			—		4	6	0	0	0		
合計 (25科目)			—	76			—		4	6	1	4	0		
学位又は称号		博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目で既修のものを除いた中から8単位以上 ただし、以下のイ～ハを満たすこと イ 上記に掲げた専門科目のセミナー科目から4単位以上 ロ 他専攻等科目から2単位以上を修得すること ハ 総合工学科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う							1 学年の学期区分				2 学期				
							1 学期の授業期間				15週				
							1 時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科応用物理学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	物性基礎工学セミナー2A	1前		2				○		2				1	兼1
	物性基礎工学セミナー2B	1後		2				○		2				1	兼1
	物性基礎工学セミナー2C	2前		2				○		2				1	兼1
	物性基礎工学セミナー2D	2後		2				○		2				1	兼1
	物性基礎工学セミナー2E	3前		2				○		2				1	兼1
	光物理学セミナー2A	1前		2				○		1	1			1	
	光物理学セミナー2B	1後		2				○		1	1			1	
	光物理学セミナー2C	2前		2				○		1	1			1	
	光物理学セミナー2D	2後		2				○		1	1			1	
	光物理学セミナー2E	3前		2				○		1	1			1	
	量子物性工学セミナー2A	1前		2				○		1	1			2	
	量子物性工学セミナー2B	1後		2				○		1	1			2	
	量子物性工学セミナー2C	2前		2				○		1	1			2	
	量子物性工学セミナー2D	2後		2				○		1	1			2	
	量子物性工学セミナー2E	3前		2				○		1	1			2	
	構造物性工学セミナー2A	1前		2				○		1	1				
	構造物性工学セミナー2B	1後		2				○		1	1				
	構造物性工学セミナー2C	2前		2				○		1	1				
	構造物性工学セミナー2D	2後		2				○		1	1				
	構造物性工学セミナー2E	3前		2				○		1	1				
	磁性材料工学セミナー2A	1前		2				○		1	1			1	
	磁性材料工学セミナー2B	1後		2				○		1	1			1	
	磁性材料工学セミナー2C	2前		2				○		1	1			1	
	磁性材料工学セミナー2D	2後		2				○		1	1			1	
	磁性材料工学セミナー2E	3前		2				○		1	1			1	
	計算数理工学セミナー2A	1前		2				○		1	1			1	
	計算数理工学セミナー2B	1後		2				○		1	1			1	
	計算数理工学セミナー2C	2前		2				○		1	1			1	
	計算数理工学セミナー2D	2後		2				○		1	1			1	
	計算数理工学セミナー2E	3前		2				○		1	1			1	
	計算物性工学セミナー2A	1前		2				○		1	1			1	
	計算物性工学セミナー2B	1後		2				○		1	1			1	
	計算物性工学セミナー2C	2前		2				○		1	1			1	
	計算物性工学セミナー2D	2後		2				○		1	1			1	
	計算物性工学セミナー2E	3前		2				○		1	1			1	
	結晶物性工学セミナー2A	1前		2				○							兼3
	結晶物性工学セミナー2B	1後		2				○							兼3
	結晶物性工学セミナー2C	2前		2				○							兼3
	結晶物性工学セミナー2D	2後		2				○							兼3
	結晶物性工学セミナー2E	3前		2				○							兼3
ナノ構造解析学セミナー2A	1前		2				○		1		1		1	兼1	
ナノ構造解析学セミナー2B	1後		2				○		1		1		1	兼1	
ナノ構造解析学セミナー2C	2前		2				○		1		1		1	兼1	
ナノ構造解析学セミナー2D	2後		2				○		1		1		1	兼1	
ナノ構造解析学セミナー2E	3前		2				○		1		1		1	兼1	
国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前後		2					○		9					

	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前後		4		○		9					
	小計 (47科目)	—	0	96	0	—		9	6	1	8	0	
総合 工学 科目	実験指導体験実習 1	1・2前後		1		○							兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前後		1		○							兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前後		2		○							兼1
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前後		3		○							兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前後		4		○							兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前後		6		○							兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前後		8		○							兼1
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前後		2		○	9						
	研究室ローテーション 2 U3	1・2前後		3		○	9						
	研究室ローテーション 2 U4	1・2前後		4		○	9						
	研究室ローテーション 2 U6	1・2前後		6		○	9						
	研究室ローテーション 2 U8	1・2前後		8		○	9						
		小計 (12科目)	—	0	48	0	—		9	0	0	0	0
	(研究指導)	—		—		—		9	6	0	0	0	
	合計 (59科目)	—	0	144	0	—		9	6	1	8	0	
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野				工学						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士學位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、以下のイ～ロを満たすこと イ 上表の専門科目セミナーの中から4単位以上 ロ 総合工学科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う							1 学年の学期区分			2学期			
							1 学期の授業期間			15週			
							1 時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
(工学研究科物質科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	高圧力物質科学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1			
	高圧力物質科学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1			
	高圧力物質科学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1			
	高圧力物質科学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1			
	高圧力物質科学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1			
	スピン物性工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1			
	スピン物性工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1			
	スピン物性工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1			
	スピン物性工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1			
	スピン物性工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1			
	材料設計工学セミナー2A	1前		2					○		1			1		
	材料設計工学セミナー2B	1後		2					○		1			1		
	材料設計工学セミナー2C	2前		2					○		1			1		
	材料設計工学セミナー2D	2後		2					○		1			1		
	材料設計工学セミナー2E	3前		2					○		1			1		
	結晶デバイスセミナー2A	1前		2					○		1		1	2		
	結晶デバイスセミナー2B	1後		2					○		1		1	2		
	結晶デバイスセミナー2C	2前		2					○		1		1	2		
	結晶デバイスセミナー2D	2後		2					○		1		1	2		
	結晶デバイスセミナー2E	3前		2					○		1		1	2		
	電子物性工学セミナー2A	1前		2					○		1	1		2		
	電子物性工学セミナー2B	1後		2					○		1	1		2		
	電子物性工学セミナー2C	2前		2					○		1	1		2		
	電子物性工学セミナー2D	2後		2					○		1	1		2		
	電子物性工学セミナー2E	3前		2					○		1	1		2		
	フロンティア計算物理セミナー2A	1前		2					○							兼3
	フロンティア計算物理セミナー2B	1後		2					○							兼3
	フロンティア計算物理セミナー2C	2前		2					○							兼3
	フロンティア計算物理セミナー2D	2後		2					○							兼3
	フロンティア計算物理セミナー2E	3前		2					○							兼3
	ナノ顕微分光物質科学セミナー2A	1前		2					○					1		兼2
	ナノ顕微分光物質科学セミナー2B	1後		2					○					1		兼2
	ナノ顕微分光物質科学セミナー2C	2前		2					○					1		兼2
	ナノ顕微分光物質科学セミナー2D	2後		2					○					1		兼2
	ナノ顕微分光物質科学セミナー2E	3前		2					○					1		兼2
	量子ビーム物性工学セミナー2A	1前		2					○			1				
	量子ビーム物性工学セミナー2B	1後		2					○			1				
	量子ビーム物性工学セミナー2C	2前		2					○			1				
	量子ビーム物性工学セミナー2D	2後		2					○			1				
	量子ビーム物性工学セミナー2E	3前		2					○			1				
レオロジー物理学セミナー2A	1前		2					○		1	1		1			
レオロジー物理学セミナー2B	1後		2					○		1	1		1			
レオロジー物理学セミナー2C	2前		2					○		1	1		1			
レオロジー物理学セミナー2D	2後		2					○		1	1		1			
レオロジー物理学セミナー2E	3前		2					○		1	1		1			
国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前後		2					○		6						

	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前後		4			○		6					
	小計 (47科目)	—		96			—		6	5	1	9	0	
総合 工学 科目	実験指導体験実習1	1・2前後		1			○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前後		1			○							兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前後		6			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前後		8			○							兼1
	研究室ローテーション2 U2	1・2前後		2			○	6						
	研究室ローテーション2 U3	1・2前後		3			○	6						
	研究室ローテーション2 U4	1・2前後		4			○	6						
	研究室ローテーション2 U6	1・2前後		6			○	6						
	研究室ローテーション2 U8	1・2前後		8			○	6						
		小計 (12科目)	—		48			—	6	0	0	0	0	0
	(研究指導)	—		—			—	6	5	0	0	0	0	
	合計 (59科目)	—		144			—	6	5	1	9	0	0	

学位又は称号	博士 (工学)	学位又は学科の分野	工学
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士學位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、以下のイ～ロを満たすこと イ 上表の専門科目セミナーの中から4単位以上 ロ 総合工学科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科材料デザイン工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	計算材料設計セミナー2 A	1前		2			○		3	1	1	2		
	計算材料設計セミナー2 B	1後		2			○		3	1	1	2		
	計算材料設計セミナー2 C	2前		2			○		3	1	1	2		
	計算材料設計セミナー2 D	2後		2			○		3	1	1	2		
	計算材料設計セミナー2 E	3前		2			○		3	1	1	2		
	先端計測分析セミナー2 A	1前		2			○		1			1		兼3
	先端計測分析セミナー2 B	1後		2			○		1			1		兼3
	先端計測分析セミナー2 C	2前		2			○		1			1		兼3
	先端計測分析セミナー2 D	2後		2			○		1			1		兼3
	先端計測分析セミナー2 E	3前		2			○		1			1		兼3
	ナノ構造設計セミナー2 A	1前		2			○		2		1	1		兼5
	ナノ構造設計セミナー2 B	1後		2			○		2		1	1		兼5
	ナノ構造設計セミナー2 C	2前		2			○		2		1	1		兼5
	ナノ構造設計セミナー2 D	2後		2			○		2		1	1		兼5
	ナノ構造設計セミナー2 E	3前		2			○		2		1	1		兼5
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		6					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		6					
小計 (17科目)		—	0	36	0		—	6	1	2	4	0		
総合工学科目	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1			○							兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2			○		6					
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3			○		6					
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4			○		6					
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6			○		6					
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8			○		6					
小計 (7科目)		—	0	25	0		—	6	0	0	0	0		
(研究指導)			—	—			—	6	1	0	0	0		
合計 (24科目)			—	0	61	0	—	6	1	2	4	0		
学位又は称号	博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1 学年の学期区分				2 学期			
							1 学期の授業期間				15 週			
							1 時限の授業時間				90 分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科物質プロセス工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	先端プロセス工学セミナー2A	1前		2			○		4	2		5		兼5
	先端プロセス工学セミナー2B	1後		2			○		4	2		5		兼5
	先端プロセス工学セミナー2C	2前		2			○		4	2		5		兼5
	先端プロセス工学セミナー2D	2後		2			○		4	2		5		兼5
	先端プロセス工学セミナー2E	3前		2			○		4	2		5		兼5
	物質創製工学セミナー2A	1前		2			○		1	1		1		兼2
	物質創製工学セミナー2B	1後		2			○		1	1		1		兼2
	物質創製工学セミナー2C	2前		2			○		1	1		1		兼2
	物質創製工学セミナー2D	2後		2			○		1	1		1		兼2
	物質創製工学セミナー2E	3前		2			○		1	1		1		兼2
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		5					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		5					
小計 (12科目)	-		0	26	0		-		5	3	0	6	0	
総合工学科目	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		5					兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8			○							兼1
	実験指導体験実習1	1・2前・後		1			○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1			○							兼1
小計 (8科目)	-		0	27	0		-		5	0	0	0	0	
(研究指導)		-		-			-		5	3	0	0	0	
合計 (20科目)		-		0	53	0		-	5	3	0	6	0	
学位又は称号	博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1 学年の学期区分			2学期				
							1 学期の授業期間			15週				
							1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。

- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科化学システム工学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	化学システム工学セミナー2A	1前		2			○		4	3	1	4		兼1	
	化学システム工学セミナー2B	1後		2			○		4	3	1	4		兼1	
	化学システム工学セミナー2C	2前		2			○		4	3	1	4		兼1	
	化学システム工学セミナー2D	2後		2			○		4	3	1	4		兼1	
	化学システム工学セミナー2E	3前		2			○		4	3	1	4		兼1	
	材料化学セミナー2A	1前		2			○		1	4		4		兼6	
	材料化学セミナー2B	1後		2			○		1	4		4		兼6	
	材料化学セミナー2C	2前		2			○		1	4		4		兼6	
	材料化学セミナー2D	2後		2			○		1	4		4		兼6	
	材料化学セミナー2E	3前		2			○		1	4		4		兼6	
	国際協働プロジェクトセミナーII U2	1・2前・後		2				○		5					
	国際協働プロジェクトセミナーII U4	1・2前・後		4				○		5					
小計 (12科目)	-		0	26	0		-		5	7	1	8	0		
総合工学科目	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		5						
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2				○						兼1	
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3				○						兼1	
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4				○						兼1	
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6				○						兼1	
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8				○						兼1	
	研究室ローテーション2 U2	1・2前・後		2				○	5						
	研究室ローテーション2 U3	1・2前・後		3				○	5						
	研究室ローテーション2 U4	1・2前・後		4				○	5						
	研究室ローテーション2 U6	1・2前・後		6				○	5						
	研究室ローテーション2 U8	1・2前・後		8				○	5						
	実験指導体験実習1	1・2前・後		1				○						兼1	
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1				○						兼1	
小計 (13科目)	-			50			-		5	0	0	0	0		
(研究指導)									5	7	0	0	0		
合計 (25科目)					76				5	7	1	8	0		
学位又は称号		博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科電気工学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	大電流エネルギー工学セミナー2A	1前		2				○		1				1	
	大電流エネルギー工学セミナー2B	1後		2				○		1				1	
	大電流エネルギー工学セミナー2C	2前		2				○		1				1	
	大電流エネルギー工学セミナー2D	2後		2				○		1				1	
	大電流エネルギー工学セミナー2E	3前		2				○		1				1	
	エネルギー環境システムセミナー2A	1前		2				○		1				1	
	エネルギー環境システムセミナー2B	1後		2				○		1				1	
	エネルギー環境システムセミナー2C	2前		2				○		1				1	
	エネルギー環境システムセミナー2D	2後		2				○		1				1	
	エネルギー環境システムセミナー2E	3前		2				○		1				1	
	機能電気・情報材料セミナー2A	1前		2					○		1	2			
	機能電気・情報材料セミナー2B	1後		2					○		1	2			
	機能電気・情報材料セミナー2C	2前		2					○		1	2			
	機能電気・情報材料セミナー2D	2後		2					○		1	2			
	機能電気・情報材料セミナー2E	3前		2					○		1	2			
	環境調和型電気エネルギーシステムセミナー2A	1前		2					○						兼4
	環境調和型電気エネルギーシステムセミナー2B	1後		2					○						兼4
	環境調和型電気エネルギーシステムセミナー2C	2前		2					○						兼4
	環境調和型電気エネルギーシステムセミナー2D	2後		2					○						兼4
	環境調和型電気エネルギーシステムセミナー2E	3前		2					○						兼4
	プラズマエネルギーセミナー2A	1前		2					○		1			1	兼2
	プラズマエネルギーセミナー2B	1後		2					○		1			1	兼2
	プラズマエネルギーセミナー2C	2前		2					○		1			1	兼2
	プラズマエネルギーセミナー2D	2後		2					○		1			1	兼2
	プラズマエネルギーセミナー2E	3前		2					○		1			1	兼2
	低温エネルギー材料セミナー2A	1前		2					○		1			1	
	低温エネルギー材料セミナー2B	1後		2					○		1			1	
	低温エネルギー材料セミナー2C	2前		2					○		1			1	
	低温エネルギー材料セミナー2D	2後		2					○		1			1	
	低温エネルギー材料セミナー2E	3前		2					○		1			1	
	宇宙電磁観測セミナー2A	1前		2					○						兼5
	宇宙電磁観測セミナー2B	1後		2					○						兼5
	宇宙電磁観測セミナー2C	2前		2					○						兼5
	宇宙電磁観測セミナー2D	2後		2					○						兼5
	宇宙電磁観測セミナー2E	3前		2					○						兼5
	宇宙情報処理セミナー2A	1前		2					○						兼3
	宇宙情報処理セミナー2B	1後		2					○						兼3
	宇宙情報処理セミナー2C	2前		2					○						兼3
	宇宙情報処理セミナー2D	2後		2					○						兼3
	宇宙情報処理セミナー2E	3前		2					○						兼3
	パワーエレクトロニクスセミナー2A	1前		2					○						兼2
	パワーエレクトロニクスセミナー2B	1後		2					○						兼2
	パワーエレクトロニクスセミナー2C	2前		2					○						兼2
	パワーエレクトロニクスセミナー2D	2後		2					○						兼2
	パワーエレクトロニクスセミナー2E	3前		2					○						兼2
国際協働プロジェクトセミナーII U2	1・2前・後		2					○		5					

	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		5					
	小計 (47科目)	-	0	96	0		-		5	2	0	4	0	
総合 工学 科目	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1			○							兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8			○							兼1
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前・後		2			○	5						
	研究室ローテーション 2 U3	1・2前・後		3			○	5						
	研究室ローテーション 2 U4	1・2前・後		4			○	5						
	研究室ローテーション 2 U6	1・2前・後		6			○	5						
	研究室ローテーション 2 U8	1・2前・後		8			○	5						
		小計 (12科目)	-	0	48	0		-		5	0	0	0	0
	(研究指導)	-		-			-		5	2	0	0	0	
	合計 (59科目)	-	0	144	0		-		5	2	0	4	0	
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野		工学									
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位论文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上						1 学年の学期区分		2学期						
						1 学期の授業期間		15週						
						1 時限の授業時間		90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科電子工学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	プラズマエレクトロニクスセミナー2A	1前		2				○			1				
	プラズマエレクトロニクスセミナー2B	1後		2				○			1				
	プラズマエレクトロニクスセミナー2C	2前		2				○			1				
	プラズマエレクトロニクスセミナー2D	2後		2				○			1				
	プラズマエレクトロニクスセミナー2E	3前		2				○			1				
	ナノプロセスセミナー2A	1前		2				○							兼6
	ナノプロセスセミナー2B	1後		2				○							兼6
	ナノプロセスセミナー2C	2前		2				○							兼6
	ナノプロセスセミナー2D	2後		2				○							兼6
	ナノプロセスセミナー2E	3前		2				○							兼6
	光エレクトロニクスセミナー2A	1前		2					○		1			1	
	光エレクトロニクスセミナー2B	1後		2					○		1			1	
	光エレクトロニクスセミナー2C	2前		2					○		1			1	
	光エレクトロニクスセミナー2D	2後		2					○		1			1	
	光エレクトロニクスセミナー2E	3前		2					○		1			1	
	ナノ情報デバイスセミナー2A	1前		2					○					1	兼3
	ナノ情報デバイスセミナー2B	1後		2					○					1	兼3
	ナノ情報デバイスセミナー2C	2前		2					○					1	兼3
	ナノ情報デバイスセミナー2D	2後		2					○					1	兼3
	ナノ情報デバイスセミナー2E	3前		2					○					1	兼3
	知能デバイスセミナー2A	1前		2					○			2			
	知能デバイスセミナー2B	1後		2					○			2			
	知能デバイスセミナー2C	2前		2					○			2			
	知能デバイスセミナー2D	2後		2					○			2			
	知能デバイスセミナー2E	3前		2					○			2			
	量子光エレクトロニクスセミナー2A	1前		2					○		1				
	量子光エレクトロニクスセミナー2B	1後		2					○		1				
	量子光エレクトロニクスセミナー2C	2前		2					○		1				
	量子光エレクトロニクスセミナー2D	2後		2					○		1				
	量子光エレクトロニクスセミナー2E	3前		2					○		1				
	量子集積デバイスセミナー2A	1前		2					○		1	1		1	
	量子集積デバイスセミナー2B	1後		2					○		1	1		1	
	量子集積デバイスセミナー2C	2前		2					○		1	1		1	
	量子集積デバイスセミナー2D	2後		2					○		1	1		1	
	量子集積デバイスセミナー2E	3前		2					○		1	1		1	
	機能集積デバイスセミナー2A	1前		2					○		1	1		1	
	機能集積デバイスセミナー2B	1後		2					○		1	1		1	
	機能集積デバイスセミナー2C	2前		2					○		1	1		1	
	機能集積デバイスセミナー2D	2後		2					○		1	1		1	
	機能集積デバイスセミナー2E	3前		2					○		1	1		1	
先端デバイスセミナー2A	1前		2					○		1	1				
先端デバイスセミナー2B	1後		2					○		1	1				
先端デバイスセミナー2C	2前		2					○		1	1				
先端デバイスセミナー2D	2後		2					○		1	1				
先端デバイスセミナー2E	3前		2					○		1	1				
量子スピン情報セミナー2A	1前		2					○						兼1	

	量子スピン情報セミナー 2 B	1後		2			○								兼1
	量子スピン情報セミナー 2 C	2前		2			○								兼1
	量子スピン情報セミナー 2 D	2後		2			○								兼1
	量子スピン情報セミナー 2 E	3前		2			○								兼1
	電子線応用工学セミナー 2 A	1前		2			○								兼3
	電子線応用工学セミナー 2 B	1後		2			○								兼3
	電子線応用工学セミナー 2 C	2前		2			○								兼3
	電子線応用工学セミナー 2 D	2後		2			○								兼3
	電子線応用工学セミナー 2 E	3前		2			○								兼3
	ナノ電子デバイスセミナー 2 A	1前		2			○					1			兼1
	ナノ電子デバイスセミナー 2 B	1後		2			○					1			兼1
	ナノ電子デバイスセミナー 2 C	2前		2			○					1			兼1
	ナノ電子デバイスセミナー 2 D	2後		2			○					1			兼1
	ナノ電子デバイスセミナー 2 E	3前		2			○					1			兼1
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		6						
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		6						
	小計 (62科目)	-	0	126	0		-		6	5	0	6	0		
総合 工 学 科 目	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1			○								兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1			○								兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2			○								兼1
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3			○								兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4			○								兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6			○								兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8			○								兼1
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前・後		2			○	6							
	研究室ローテーション 2 U3	1・2前・後		3			○	6							
	研究室ローテーション 2 U4	1・2前・後		4			○	6							
	研究室ローテーション 2 U6	1・2前・後		6			○	6							
	研究室ローテーション 2 U8	1・2前・後		8			○	6							
	小計 (12科目)	-	0	48	0		-		6	0	0	0	0	0	
	(研究指導)	-	-	-	-	-	-	6	5	0	0	0	0		
合計 (74科目)		-	0	174	0		-	6	5	0	6	0			
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野				工学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1 学年の学期区分			2 学期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職

学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

(1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

(2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

(3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科情報・通信工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	画像情報学セミナー2A	1前		2			○		1	1			1	
	画像情報学セミナー2B	1後		2			○		1	1			1	
	画像情報学セミナー2C	2前		2			○		1	1			1	
	画像情報学セミナー2D	2後		2			○		1	1			1	
	画像情報学セミナー2E	3前		2			○		1	1			1	
	情報システムセミナー2A	1前		2			○		1				1	
	情報システムセミナー2B	1後		2			○		1				1	
	情報システムセミナー2C	2前		2			○		1				1	
	情報システムセミナー2D	2後		2			○		1				1	
	情報システムセミナー2E	3前		2			○		1				1	
	情報ネットワークセミナー2A	1前		2			○		1	1				
	情報ネットワークセミナー2B	1後		2			○		1	1				
	情報ネットワークセミナー2C	2前		2			○		1	1				
	情報ネットワークセミナー2D	2後		2			○		1	1				
	情報ネットワークセミナー2E	3前		2			○		1	1				
	コンピュータ・アーキテクチャセミナー2A	1前		2			○		1					
	コンピュータ・アーキテクチャセミナー2B	1後		2			○		1					
	コンピュータ・アーキテクチャセミナー2C	2前		2			○		1					
	コンピュータ・アーキテクチャセミナー2D	2後		2			○		1					
	コンピュータ・アーキテクチャセミナー2E	3前		2			○		1					
	インテリジェントシステムセミナー2A	1前		2			○		1	1			1	
	インテリジェントシステムセミナー2B	1後		2			○		1	1			1	
	インテリジェントシステムセミナー2C	2前		2			○		1	1			1	
	インテリジェントシステムセミナー2D	2後		2			○		1	1			1	
	インテリジェントシステムセミナー2E	3前		2			○		1	1			1	
	情報制御工学セミナー2A	1前		2			○		1					
	情報制御工学セミナー2B	1後		2			○		1					
	情報制御工学セミナー2C	2前		2			○		1					
	情報制御工学セミナー2D	2後		2			○		1					
	情報制御工学セミナー2E	3前		2			○		1					
	数理情報工学セミナー2A	1前		2			○			2				兼1
	数理情報工学セミナー2B	1後		2			○			2				兼1
	数理情報工学セミナー2C	2前		2			○			2				兼1
	数理情報工学セミナー2D	2後		2			○			2				兼1
	数理情報工学セミナー2E	3前		2			○			2				兼1
	無線通信システムセミナー2A	1前		2			○							兼3
	無線通信システムセミナー2B	1後		2			○							兼3
	無線通信システムセミナー2C	2前		2			○							兼3
	無線通信システムセミナー2D	2後		2			○							兼3
	無線通信システムセミナー2E	3前		2			○							兼3
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○			5				
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○			5				
小計 (42科目)		-	0	86	0		-		5	5	0	3	0	
総合工学	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1				○						兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2				○						兼1

科目	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3			○						兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4			○						兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6			○						兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8			○						兼1
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前・後		2			○	5					
	研究室ローテーション 2 U3	1・2前・後		3			○	5					
	研究室ローテーション 2 U4	1・2前・後		4			○	5					
	研究室ローテーション 2 U6	1・2前・後		6			○	5					
	研究室ローテーション 2 U8	1・2前・後		8			○	5					
	小計 (12科目)		—	0	48	0	—	5	0	0	0	0	0
(研究指導)			—			—	5	5	0	0	0	0	
合計 (54科目)			—	0	134	0	—	5	5	0	3	0	
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野				工学						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1 学年の学期区分		2 学期				
							1 学期の授業期間		15 週				
							1 時限の授業時間		90 分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学研究科機械システム工学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	固体力学セミナー2 A	1前		2				○			1	1			
	固体力学セミナー2 B	1後		2				○			1	1			
	固体力学セミナー2 C	2前		2				○			1	1			
	固体力学セミナー2 D	2後		2				○			1	1			
	固体力学セミナー2 E	3前		2				○			1	1			
	環境・エネルギー工学セミナー2 A	1前		2				○				1			兼2
	環境・エネルギー工学セミナー2 B	1後		2				○				1			兼2
	環境・エネルギー工学セミナー2 C	2前		2				○				1			兼2
	環境・エネルギー工学セミナー2 D	2後		2				○				1			兼2
	環境・エネルギー工学セミナー2 E	3前		2				○				1			兼2
	統計流体工学セミナー2 A	1前		2					○			1			
	統計流体工学セミナー2 B	1後		2					○			1			
	統計流体工学セミナー2 C	2前		2					○			1			
	統計流体工学セミナー2 D	2後		2					○			1			
	統計流体工学セミナー2 E	3前		2					○			1			
	熱制御工学セミナー2 A	1前		2					○			1	1		1
	熱制御工学セミナー2 B	1後		2					○			1	1		1
	熱制御工学セミナー2 C	2前		2					○			1	1		1
	熱制御工学セミナー2 D	2後		2					○			1	1		1
	熱制御工学セミナー2 E	3前		2					○			1	1		1
	バイオメカニクスセミナー2 A	1前		2					○			1	1		1
	バイオメカニクスセミナー2 B	1後		2					○			1	1		1
	バイオメカニクスセミナー2 C	2前		2					○			1	1		1
	バイオメカニクスセミナー2 D	2後		2					○			1	1		1
	バイオメカニクスセミナー2 E	3前		2					○			1	1		1
	計算力学セミナー2 A	1前		2					○			1	1		
	計算力学セミナー2 B	1後		2					○			1	1		
	計算力学セミナー2 C	2前		2					○			1	1		
	計算力学セミナー2 D	2後		2					○			1	1		
	計算力学セミナー2 E	3前		2					○			1	1		
	機械力学セミナー2 A	1前		2					○			1			
	機械力学セミナー2 B	1後		2					○			1			
	機械力学セミナー2 C	2前		2					○			1			
	機械力学セミナー2 D	2後		2					○			1			
	機械力学セミナー2 E	3前		2					○			1			
	支援ロボティクスセミナー2 A	1前		2					○			1			1
	支援ロボティクスセミナー2 B	1後		2					○			1			1
	支援ロボティクスセミナー2 C	2前		2					○			1			1
	支援ロボティクスセミナー2 D	2後		2					○			1			1
	支援ロボティクスセミナー2 E	3前		2					○			1			1
自動車安全工学セミナー2 A	1前		2					○			1				
自動車安全工学セミナー2 B	1後		2					○			1				
自動車安全工学セミナー2 C	2前		2					○			1				
自動車安全工学セミナー2 D	2後		2					○			1				
自動車安全工学セミナー2 E	3前		2					○			1				
システム制御セミナー2 A	1前		2					○			1	1		1	

	システム制御セミナー2 B	1後		2			○		1	1		1		
	システム制御セミナー2 C	2前		2			○		1	1		1		
	システム制御セミナー2 D	2後		2			○		1	1		1		
	システム制御セミナー2 E	3前		2			○		1	1		1		
	生体システム制御セミナー2 A	1前		2			○			1				
	生体システム制御セミナー2 B	1後		2			○			1				
	生体システム制御セミナー2 C	2前		2			○			1				
	生体システム制御セミナー2 D	2後		2			○			1				
	生体システム制御セミナー2 E	3前		2			○			1				
	モビリティシステムセミナー2 A	1前		2			○		1	1				
	モビリティシステムセミナー2 B	1後		2			○		1	1				
	モビリティシステムセミナー2 C	2前		2			○		1	1				
	モビリティシステムセミナー2 D	2後		2			○		1	1				
	モビリティシステムセミナー2 E	3前		2			○		1	1				
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		9					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		9					
	小計 (62科目)	-	0	126	0		-		9	8	0	5	0	
総合 工 学 科 目	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1			○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1			○							
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2			○							
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3			○							
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4			○							
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6			○							
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8			○							
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前・後		2			○		9					
	研究室ローテーション 2 U3	1・2前・後		3			○		9					
	研究室ローテーション 2 U4	1・2前・後		4			○		9					
	研究室ローテーション 2 U6	1・2前・後		6			○		9					
	研究室ローテーション 2 U8	1・2前・後		8			○		9					
	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○		9					
	小計 (13科目)	-	0	50	0		-		9	0	0	0	0	
(研究指導)		-	-	-	-	-	-	9	8	0	0	0	0	
合計 (75科目)		-	0	176	0	-	-	9	8	0	5	0	0	
学位又は称号	博士 (工学)			学位又は学科の分野				工学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、以下のイ、ロを満たすこと イ 上表の専門科目セミナーの中から4単位以上 ロ 他専攻等科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う								1 学年の学期区分			2学期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			
(注)														
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。														

- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科マイクロ・ナノ機械理工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ナノ計測工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	ナノ計測工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	ナノ計測工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	ナノ計測工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	ナノ計測工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	マイクロ熱流体工学セミナー2A	1前		2				○			1			
	マイクロ熱流体工学セミナー2B	1後		2				○			1			
	マイクロ熱流体工学セミナー2C	2前		2				○			1			
	マイクロ熱流体工学セミナー2D	2後		2				○			1			
	マイクロ熱流体工学セミナー2E	3前		2				○			1			
	バイオロボティクスセミナー2A	1前		2				○			1			
	バイオロボティクスセミナー2B	1後		2				○			1			
	バイオロボティクスセミナー2C	2前		2				○			1			
	バイオロボティクスセミナー2D	2後		2				○			1			
	バイオロボティクスセミナー2E	3前		2				○			1			
	マイクロ・ナノプロセス工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	マイクロ・ナノプロセス工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	マイクロ・ナノプロセス工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	マイクロ・ナノプロセス工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	マイクロ・ナノプロセス工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	材料強度・評価学セミナー2A	1前		2				○		1		1	1	
	材料強度・評価学セミナー2B	1後		2				○		1		1	1	
	材料強度・評価学セミナー2C	2前		2				○		1		1	1	
	材料強度・評価学セミナー2D	2後		2				○		1		1	1	
	材料強度・評価学セミナー2E	3前		2				○		1		1	1	
	生産プロセス工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	生産プロセス工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	生産プロセス工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	生産プロセス工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	生産プロセス工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	知能ロボット学セミナー2A	1前		2				○			1		1	兼1
	知能ロボット学セミナー2B	1後		2				○			1		1	兼1
	知能ロボット学セミナー2C	2前		2				○			1		1	兼1
	知能ロボット学セミナー2D	2後		2				○			1		1	兼1
	知能ロボット学セミナー2E	3前		2				○			1		1	兼1
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2					○	4				
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4					○	4				
小計 (37科目)		-	0	76	0			-	4	6	1	5	0	
総合工学科目	実験指導体験実習 1	1・2前・後		1				○						兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後		1				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後		3				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後		4				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後		6				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後		8				○						兼1
	研究室ローテーション 2 U2	1・2前・後		2				○	4					

研究室ローテーション 2 U3	1・2前・後		3			○	4					
研究室ローテーション 2 U4	1・2前・後		4			○	4					
研究室ローテーション 2 U6	1・2前・後		6			○	4					
研究室ローテーション 2 U8	1・2前・後		8			○	4					
医工連携セミナー	1・2・3前		2			○	4					
小計 (13科目)	—	0	50	0	—	—	4	1	0	0	0	0
(研究指導)	—		—		—	—	4	6	0	0	0	0
合計 (50科目)	—	0	126	0	—	—	4	6	1	5	0	0
学位又は称号	博士 (工学)			学位又は学科の分野			工学					
卒業要件及び履修方法							授業期間等					
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、以下のイ、ロを満たすこと イ 上表の専門科目セミナーの中から4単位以上 ロ 他専攻等科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う							1 学年の学期区分			2 学期		
							1 学期の授業期間			15週		
							1 時限の授業時間			90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科航空宇宙工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	構造力学セミナー2A	1前		2			○		1	1				兼1
	構造力学セミナー2B	1後		2			○		1	1				兼1
	構造力学セミナー2C	2前		2			○		1	1				兼1
	構造力学セミナー2D	2後		2			○		1	1				兼1
	構造力学セミナー2E	3前		2			○		1	1				兼1
	制御システム工学セミナー2A	1前		2			○		1		1	1		
	制御システム工学セミナー2B	1後		2			○		1		1	1		
	制御システム工学セミナー2C	2前		2			○		1		1	1		
	制御システム工学セミナー2D	2後		2			○		1		1	1		
	制御システム工学セミナー2E	3前		2			○		1		1	1		
	流体力学セミナー2A	1前		2			○		1			1		
	流体力学セミナー2B	1後		2			○		1			1		
	流体力学セミナー2C	2前		2			○		1			1		
	流体力学セミナー2D	2後		2			○		1			1		
	流体力学セミナー2E	3前		2			○		1			1		
	衝撃波・宇宙推進セミナー2A	1前		2			○			1		1		兼2
	衝撃波・宇宙推進セミナー2B	1後		2			○			1		1		兼2
	衝撃波・宇宙推進セミナー2C	2前		2			○			1		1		兼2
	衝撃波・宇宙推進セミナー2D	2後		2			○			1		1		兼2
	衝撃波・宇宙推進セミナー2E	3前		2			○			1		1		兼2
	推進エネルギーシステム工学セミナー2A	1前		2			○			1		1		兼2
	推進エネルギーシステム工学セミナー2B	1後		2			○			1		1		兼2
	推進エネルギーシステム工学セミナー2C	2前		2			○			1		1		兼2
	推進エネルギーシステム工学セミナー2D	2後		2			○			1		1		兼2
	推進エネルギーシステム工学セミナー2E	3前		2			○			1		1		兼2
	生産工学セミナー2A	1後		2			○			1		1		兼1
	生産工学セミナー2B	1後		2			○			1		1		兼1
	生産工学セミナー2C	2前		2			○			1		1		兼1
	生産工学セミナー2D	2後		2			○			1		1		兼1
	生産工学セミナー2E	3前		2			○			1		1		兼1
	航空宇宙機運動システム工学セミナー2A	1前		2			○			1	1	1		
	航空宇宙機運動システム工学セミナー2B	1後		2			○			1	1	1		
	航空宇宙機運動システム工学セミナー2C	2前		2			○			1	1	1		
	航空宇宙機運動システム工学セミナー2D	2後		2			○			1	1	1		
	航空宇宙機運動システム工学セミナー2E	3前		2			○			1	1	1		
	先進複合材料セミナー2A	1前		2			○							兼2
	先進複合材料セミナー2B	1後		2			○							兼2
	先進複合材料セミナー2C	2前		2			○							兼2
	先進複合材料セミナー2D	2後		2			○							兼2
	先進複合材料セミナー2E	3前		2			○							兼2
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○			5				
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○			5				
小計 (42科目)	-		0	86	0		-		5	4	1	6	0	
総合工学	実験指導体験実習 1	1・2前後		1				○						兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前後		1				○						兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後		2				○						兼1

科目	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8			○							兼1
	研究室ローテーション2 U2	1・2前・後		2			○	5						
	研究室ローテーション2 U3	1・2前・後		3			○	5						
	研究室ローテーション2 U4	1・2前・後		4			○	5						
	研究室ローテーション2 U6	1・2前・後		6			○	5						
	研究室ローテーション2 U8	1・2前・後		8			○	5						
	医工連携セミナー	1・2・3前		2			○	5						
	小計 (13科目)	—		0	50	0	—	5	0	0	0	0	0	
(研究指導)		—		—		—	5	4	0	0	0	0		
合計 (55科目)		—	0	136	0	—	5	4	1	6	0			
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野			工学								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、以下のイ、ロを満たすこと イ 上表の専門科目セミナーの中から4単位以上 ロ 他専攻等科目は2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う						1 学年の学期区分		2 学期						
						1 学期の授業期間		15週						
						1 時限の授業時間		90分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

（工学研究科エネルギー理工学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	エネルギー理工学セミナー2A	1前		2			○		4	4		4		兼4
	エネルギー理工学セミナー2B	1後		2			○		4	4		4		兼4
	エネルギー理工学セミナー2C	2前		2			○		4	4		4		兼4
	エネルギー理工学セミナー2D	2後		2			○		4	4		4		兼4
	エネルギー理工学セミナー2E	3前		2			○		4	4		4		兼4
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後		2			○		4					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後		4			○		4					
小計（7科目）	-	0	16	0		-		4	4	0	4	0		
総合工学科目	実験指導体験実習1	1・2前後		1			○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前後		1			○							兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8			○							兼1
小計（7科目）	-	0	25	0		-		0	0	0	0	0		
（研究指導）			-	-		-		4	4	0	0	0		
合計（14科目）			-	0	41	0	-	4	4	0	4	0		
学位又は称号	博士（工学）		学位又は学科の分野				工学							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単 位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最 終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単 位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上						1 学年の学期区分				2 学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
- (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科総合エネルギー工学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	総合エネルギー工学セミナー2A	1前		2			○		5	4		2		兼3
	総合エネルギー工学セミナー2B	1後		2			○		5	4		2		兼3
	総合エネルギー工学セミナー2C	2前		2			○		5	4		2		兼3
	総合エネルギー工学セミナー2D	2後		2			○		5	4		2		兼3
	総合エネルギー工学セミナー2E	3前		2			○		5	4		2		兼3
	国際協働プロジェクトセミナーII U2	1・2前・後		2			○		5					
	国際協働プロジェクトセミナーII U4	1・2前・後		4			○		5					
小計（7科目）			0	16	0				5	4	0	2	0	
総合工学科目	実験指導体験実習1	1・2前・後		1			○							兼1
	実験指導体験実習2	1・2前・後		1			○							兼1
	研究インターンシップ2 U2	1・2前・後		2			○							兼1
	研究インターンシップ2 U3	1・2前・後		3			○							兼1
	研究インターンシップ2 U4	1・2前・後		4			○							兼1
	研究インターンシップ2 U6	1・2前・後		6			○							兼1
	研究インターンシップ2 U8	1・2前・後		8			○							兼1
小計（7科目）			0	25	0				0	0	0	0	0	
(研究指導)									5	4	0	0	0	
合計（14科目）			0	41	0				5	4	0	2	0	
学位又は称号	博士（工学）				学位又は学科の分野	工学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上							1 学年の学期区分			2 学期				
							1 学期の授業期間			15週				
							1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
- (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学研究科土木工学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	構造工学セミナー2A	1前		2				○		1		1	1	
	構造工学セミナー2B	1後		2				○		1		1	1	
	構造工学セミナー2C	2前		2				○		1		1	1	
	構造工学セミナー2D	2後		2				○		1		1	1	
	構造工学セミナー2E	3前		2				○		1		1	1	
	材料・形態学セミナー2A	1前		2				○		1	1			
	材料・形態学セミナー2B	1後		2				○		1	1			
	材料・形態学セミナー2C	2前		2				○		1	1			
	材料・形態学セミナー2D	2後		2				○		1	1			
	材料・形態学セミナー2E	3前		2				○		1	1			
	流域保全学セミナー2A	1前		2				○		1	1	1		
	流域保全学セミナー2B	1後		2				○		1	1	1		
	流域保全学セミナー2C	2前		2				○		1	1	1		
	流域保全学セミナー2D	2後		2				○		1	1	1		
	流域保全学セミナー2E	3前		2				○		1	1	1		
	海岸・海洋工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	海岸・海洋工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	海岸・海洋工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	海岸・海洋工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	海岸・海洋工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	地盤材料工学セミナー2A	1前		2				○		1			1	
	地盤材料工学セミナー2B	1後		2				○		1			1	
	地盤材料工学セミナー2C	2前		2				○		1			1	
	地盤材料工学セミナー2D	2後		2				○		1			1	
	地盤材料工学セミナー2E	3前		2				○		1			1	
	国土防災安全工学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	国土防災安全工学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	国土防災安全工学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	国土防災安全工学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	国土防災安全工学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	社会基盤維持管理学セミナー2A	1前		2				○		1	1		1	
	社会基盤維持管理学セミナー2B	1後		2				○		1	1		1	
	社会基盤維持管理学セミナー2C	2前		2				○		1	1		1	
	社会基盤維持管理学セミナー2D	2後		2				○		1	1		1	
	社会基盤維持管理学セミナー2E	3前		2				○		1	1		1	
	国土デザイン学セミナー2A	1前		2				○			1			
	国土デザイン学セミナー2B	1後		2				○			1			
	国土デザイン学セミナー2C	2前		2				○			1			
	国土デザイン学セミナー2D	2後		2				○			1			
	国土デザイン学セミナー2E	3前		2				○			1			
地圏環境保全学セミナー2A	1前		2				○						兼2	
地圏環境保全学セミナー2B	1後		2				○						兼2	
地圏環境保全学セミナー2C	2前		2				○						兼2	
地圏環境保全学セミナー2D	2後		2				○						兼2	
地圏環境保全学セミナー2E	3前		2				○						兼2	
国際環境協力セミナー2A	1前		2				○						兼1	

	国際環境協力セミナー2B	1後	2			○							兼1
	国際環境協力セミナー2C	2前	2			○							兼1
	国際環境協力セミナー2D	2後	2			○							兼1
	国際環境協力セミナー2E	3前	2			○							兼1
	環境エコロジーシステムセミナー2A	1前	2			○							兼2
	環境エコロジーシステムセミナー2B	1後	2			○							兼2
	環境エコロジーシステムセミナー2C	2前	2			○							兼2
	環境エコロジーシステムセミナー2D	2後	2			○							兼2
	環境エコロジーシステムセミナー2E	3前	2			○							兼2
	国際環境人材育成セミナー2A	1前	2			○		8					
	国際環境人材育成セミナー2B	1後	2			○		8					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U2	1・2前・後	2			○		8					
	国際協働プロジェクトセミナーⅡ U4	1・2前・後	4			○		8					
	グローバル研究インターンシップ2	1・2前・後	2			○		8					
	小計 (60科目)	-	0	122	0	-		8	6	2	6	0	
総合 工学 科目	実験指導体験実習 1	1・2前・後	1			○							兼1
	実験指導体験実習 2	1・2前・後	1			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U2	1・2前・後	2			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U3	1・2前・後	3			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U4	1・2前・後	4			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U6	1・2前・後	6			○							兼1
	研究インターンシップ 2 U8	1・2前・後	8			○							兼1
	小計 (7科目)	-	0	25	0	-		1	1	0	0	0	
	(研究指導)	-	-	-	-	-		8	6	0	0	0	
	合計 (67科目)	-	0	147	0	-		8	6	2	6	0	
学位又は称号	博士 (工学)		学位又は学科の分野				工学						
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 履修基準 上記の授業科目及び博士前期課程の授業科目 (既修のものを除く) の中から8単位以上 ただし、上表の専門科目セミナーの中から4単位以上						1 学年の学期区分			2 学期				
						1 学期の授業期間			15週				
						1 時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者

に授与する学位を併記すること。

- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授業科目の概要（国際連携学科等）

（工学研究科名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。それぞれの課題における問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法とデータを修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へ研究提案書、進捗サマリーを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルを修得する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅣA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へ進捗サマリーや原稿などを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅤA	主大学で研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。主大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で原稿や報告書などを作成する。それまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する課題に関する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅥA	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。博士論文審査に向けて論文を作成して両大学に提出する。これまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に関する課題に対する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	

	名古屋大学	サステイナブル材料システム特別講義	<p>産業の持続可能な発展と技術について説明する。日本のいくつかの産業を見る機会を提供する。世界において変わりつつある開発、バイオサーキュラーグリーン (BCG) の経済、及び問題解決の概念を、産業部門および学術部門の経験豊富なスピーカーや専門家による講演を通じて理解する。さらに、持続可能な開発目標 (SDGs) において日本の産業界及び学術界がどのように取り組むべきかについて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業界における生産活動：基礎 3. 産業界における品質管理：基礎 4. 持続可能な開発目標 (SDGs)：基礎 5. SDGsの実現 6. SDGs経済を踏まえた様々な産業における持続可能な開発の原則と技術 7. 自動車関連業界等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 8. 工場見学1 9. エレクトロニクス産業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 10. 化学工業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 11. 素材産業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 12. 工場見学2 13. リサイクル業界：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 14. グループスタディとディスカッション 15. 口頭発表 (最終評価) 	
専門科目	チュラロンコン大学	博士論文研究IB	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。それぞれの課題における問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IIB	主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法とデータを修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へ研究提案書、進捗サマリーを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IIIB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルを修得する。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IVB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へ進捗サマリーや原稿などを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究VB	主大学で研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。主大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で原稿や報告書などを作成する。それまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する課題に関する理解を深める。それぞれの課題における研究成果のとりまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	

チュラロ ンコン大 学	博士論文研究VIB	<p>主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。博士論文審査に向けて論文を作成して両大学に提出する。</p> <p>これまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に関する課題に対する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。</p>	
チュラロ ンコン大 学	サステイナブル材 料科学特別講義	<p>産業の持続可能な発展と技術について説明する。タイのいくつかの産業を見る機会を提供する。世界において変わりつつある開発、バイオサーキュラーグリーン (BCG) の経済、及び問題解決の概念を、産業部門および学術部門の経験豊富なスピーカーや専門家による講演を通じて理解する。さらに、持続可能な開発目標 (SDGs) においてタイの産業界及び学術界がどのように取り組むべきかについて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業界における生産：基本 3. 産業界における品質管理：基本 4. 持続可能な開発目標 (SDGs) について 5. BCGの産業への適用 6. BCG経済を踏まえた様々な産業における持続可能な開発原則と技術 7. 農業・バイオマス産業等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 8. 工場見学1 9. リサイクル業界等：生産・品質管理・SDGsの実現 10. 工場見学2 11. 建設資材業界等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 12. エレクトロニクス業界等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 13. 工場見学3 14. グループスタディとディスカッション 15. 口頭発表 (最終評価) 	
名古屋大 学	(研究指導)	<p>(1 旭 良司) マテリアルズインフォマティクスや計算科学を利用して、データ駆動型材料設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 足立 吉隆) 鉄鋼材料を中核として、実験-計算工学-データサイエンスを組合せた3D-4D材料デザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(3 市野 良一) 電気化学を利用しためっきやリサイクルを中核とした研究指導を行う。</p> <p>(4 井藤 彰) 磁性ナノ粒子を利用したバイオプロセス、ナノメディシン、再生医療、がん治療に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 入山 恭寿) 新規な蓄電池の開発に向けた全固体電池、固体電解質、界面状態解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 宇佐美 徳隆) シリコン系材料のバルクからナノレベルの構造制御を利用した太陽電池やシリサイド関連物質の高品質結晶等に関する研究指導を行う。</p>	

(7 宇治原 徹)

結晶成長の高度な制御による高性能半導体や高機能放熱材料等の高品質結晶材料の開発に関する研究指導を行う。

(8 川尻 喜章)

モデリング、データ解析手法を応用し、吸着および二酸化炭素分離プロセスの開発に関する研究指導を行う。

(9 川角 昌弥)

次世代電池や水電解およびそれらに必要な電解質や電極材料に関する研究指導を行う。

(10 北 英紀)

LCAを考慮に入れたサーマルマネジメントやトライボロジー用のセラミックスおよびその製造システムに関する研究指導を行う。

(11 君塚 肇)

計算材料科学を用いて、物性モデリング、力学特性・変形機構、水素材料、電子・原子論解析など、複雑現象のシミュレーションに関する研究指導を行う。

(12 小橋 眞)

金属3Dプリンタ等を活用したラティス構造体などの超軽量ポーラス金属や異種材料接合などマルチマテリアルに関する研究指導を行う。

(13 小山 敏幸)

データサイエンスを利用した材料組織制御を通じた材料特性の制御に関する研究指導を行う。

(14 齋藤 永宏)

炭素材料を中心としたソリューションプラズマを利用したナノ材料合成技術等の研究指導を行う。

(15 高嶋 圭史)

シンクロトロン光を発する加速器の開発および同光を利用した材料解析に関する研究指導を行う。

(16 高見 誠一)

巢引接合法を利用したセラミックナノ粒子の合成プロセスの開発に関する研究指導を行う。

(17 永岡 勝俊)

アンモニア合成・分解やCO₂からの燃料合成等の資源循環反応に使用する高機能触媒の設計・開発に関する研究指導を行う。

(18 則永 行庸)

炭素資源利用技術や反応シミュレーション、化学反応器デザインを通じたCO₂分離回収と利用等に関する研究指導を行う。

(19 原田 寛)

凝固を出発点とした金属材料の材料加工技術やその予測・制御に関する研究指導を行う。

(20 松尾 豊)

機能化ナノカーボンの合成やそれを活用した新規な有機系太陽電池および感圧材等に関する研究指導を行う。

- (21 水口 将輝)
スピントロニクスを基軸とし、ナノスピンや磁性の制御による機能性磁性材料の開発に関する研究指導を行う。
- (22 山本 剛久)
フラッシュ焼結法を利用したファインセラミックスの作製と透過型電子顕微鏡 (HRTEM、STEM) などによるナノ構造解析に関する研究指導を行う。
- (23 一木 輝久)
マテリアルズインフォマティクスや情報統計力学を利用した最適実験デザインや自立型人工知能等に関する研究指導を行う。
- (24 伊藤 孝至)
熱電材料や熱電発電システムによる省エネルギーかつ低環境負荷なエネルギー変換に関する研究指導を行う。
- (25 伊藤 孝寛)
超電導材料等のシンクロtron光を利用した材料構造や材料特性の分析等に関する研究指導を行う。
- (26 王 謙)
光触媒を利用した水分解による水素発生や人工光合成による二酸化炭素再資源化等に関する研究指導を行う。
- (27 黒川 康良)
ナノ構造を利用した光散乱を制御による光閉じ込め構造材料や太陽電池等に関する研究指導を行う。
- (28 小島 義弘)
超音波支援による金属微粒子合成、高分子合成・分解、排水処理に関する研究指導を行う。
- (29 小林 敬幸)
蓄熱や吸着、ヒートポンプ等のエネルギー変換に関する研究指導を行う。
- (30 高田 尚記)
高温体制を有する軽量超合金の設計や金属のマイクロおよびマクロ組織制御に関する研究指導を行う。
- (31 田川 美穂)
DNAとナノ粒子を利用したナノ構造体の構造制御や収縮制御に関する研究指導を行う。
- (32 塚田 祐貴)
材料微細組織、相変態など、フェーズフィールド法等を用いた材料設計に関する研究指導を行う。
- (33 乗松 航)
グラフェンを中心としたナノカーボンの合成方法や構造制御、構造分析に関する研究指導を行う。
- (34 原田 俊太)
半導体や放熱用結晶の微小構造の制御による高品質結晶合成と同プロセスや検査への機械学習・AI利用に関する研究指導を行う。

(35 稗田 純子)
表面・界面特性を制御した機能性薄膜材料やその特殊環境での使用に関する研究指導を行う。

(36 藤原 幸一)
スモールデータの収集を基軸とした機械学習、生体信号処理、てんかん学、睡眠医学、プロセスシステム工学に関する研究指導を行う。

(37 松岡 辰郎)
高周波レオオブティクスを利用した液晶挙動および超音波・表面波を利用したソフトマテリアルの物性に関する研究指導を行う。

(38 松宮 弘明)
微量分析および環境浄化材料を中心とした研究指導を行う。

(39 宮町 俊生)
機能性磁性材料のミクロレベルでの構造解析や特性評価を通し、機能発現の原理解明等に関する研究指導を行う。

(40 向井 康人)
ナノファイバー等を利用した膜濾過や吸着技術による水処理等の精密分離に関する研究指導を行う。

(41 安田 啓司)
ソノケミストリーを中心に、ファインバブルやキャビテーション等を利用した水処理、ナノマテリアル合成に関する研究指導を行う。

(42 山本 徹也)
炭素繊維複合材料の高機能化・高性能化およびそれを実現するコロイド技術に関する研究指導を行う。

(43 湯川 伸樹)
合金を含む金属材料の塑性変形を基礎とした材料加工およびバルク・界面構造に関する研究指導を行う。

(44 小川 登志男)
ナノ構造から最先端鉄鋼材料の設計に関する研究指導を行う。

(45 蔡 尚佑)
ソリューションプラズマを利用したナノ材料へのカーボン材料のコーティング等に関する研究指導を行う。

(46 出口 清一)
低温水素製造や廃熱利用熱電発電等の環境調和型材料創製に関する研究指導を行う。

(47 藤木 淳平)
振動検証を利用した多孔質材料への吸着や熱物質移動等のモデリングに関する研究指導を行う。

(48 本山 宗主)
電極や勝つ物質等のナノ構造制御による電池特性の向上や解析に関する研究指導を行う。

(49 阿部 英嗣)
金属材料の塑性加工および材料強度・寿命評価に関する研究指導を行う。

(50 石垣 範和)
イオン伝導などのナノ構造に起因する材料特性やその評価に関する研究指導を行う。

(51 入澤 寿平)
カーボンナノチューブやカーボン繊維等を利用した高機能材料の開発に関する研究指導を行う。

(52 上野 智永)
カーボン材料をベースとした高信頼性有機材料、超軽量材料、熱制御材料、難燃材料に関する研究指導を行う。

(53 WANG Zhilei)
マテリアルズインフォマティクスによる構造・機能材料のデザインに関する研究指導を行う。

(54 郭 磊)
高機能なフォトカソードの開発に関する研究指導を行う。

(55 金子 真大)
磁性ナノ粒子を利用したがん治療やバイオマテリアル等に関する研究指導を行う。

(56 神田 英輝)
超臨界流体を利用した、プラズマナノ粒子の合成や抽出・分離技術に関する研究指導を行う。

(57 窪田 光宏)
化学蓄熱やヒートポンプなどを利用したエネルギー貯蔵やデシカント空調システム等に関する研究指導を行う。

(58 後藤 和泰)
新規ヘテロ接合材料を利用した次世代太陽電池等に関する研究指導を行う。

(59 鈴木 飛鳥)
熱マネジメント用ポーラス金属材料の設計および積層造形や異材接合に関する研究指導を行う。

(60 CHOKRADJAROEN Chayanaphat)
溶液プラズマを利用し、キトサンのような生物由来化合物と利用したサステナブル材料に関する研究指導を行う。

(61 徳永 智春)
透過型電子顕微鏡を用いたナノ構造のその場観察によるカーボン系触媒に関する研究指導を行う。

(62 中村 真季)
シミュレーションや数値計算を利用した触媒付ディーゼル微粒子フィルターの予測・設計に関する研究指導を行う。

			<p>(63 萩尾 健史) ナノ構造を有する材料を中核とした分離技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(64 服部 将朋) 環境浄化に有効な、ナノ結晶、ナノ金属/金属酸化物とその複合材料やそれを用いたシステムに関する研究指導を行う。</p> <p>(65 町田 洋) CO2分離回収用の吸収液開発とそれを利用した省エネルギープロセス設計やプロセスシミュレーション、相平衡に関する研究指導を行う。</p> <p>(66 矢嶌 智之) シミュレーション等を利用した材料やシステムの設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(67 山口 毅) 物理化学、溶液化学、輸送物性、レオロジー、統計力学に関する研究指導を行う。</p> <p>(68 山下 誠司) 粉体工学、粒子分散、セラミックス、サーマルマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(69 山田 博史) 多相系反応器による反応分離や物質移動等に関する研究指導を行う。</p> <p>(70 湯川 宏) 水素透過・貯蔵材料、水素センシング等、水素エネルギー材料に関する研究指導を行う。</p> <p>(71 LIN Haosheng) ナノカーボンの合成や有機系およびペロブスカイト型太陽電池等に関する研究指導を行う。</p>	
	チュラロンコン大学	(研究指導)	<p>(1 Boonyarach Kitiyanan) 触媒および反応工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 Chawalit Ngamcharussrivichai) 金属酸化物、ゼオライト、メソポーラスモレキュラーシーブの合成と特性評価、触媒を利用したリグノセルロース系バイオマスと脂質の燃料や有機化学物質への変換、微細藻類のバイオ精製、多孔質材料を用いた選択吸着に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 Napida Hinchiranan) ポリマーの化学修飾、固形廃棄物および代替液体燃料の精製やその利用に向けた触媒プロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 Nattaya Pongstabodee) 二酸化炭素回収とその利用、水素製造および環境配慮技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 Nisanart Traiphol) センシング用およびプラスチック太陽電池の被覆材用の無機/有機ナノコンポジット材料、各種溶媒へのコロイド粒子やナノ粒子の分散技術に関する研究指導を行う。</p>	

(6 Parinya Karndumri)
高エネルギー理論物理学に関する研究指導を行う。

(7 Pornpote Piumsomboon)
二酸化炭素回収プロセス、エネルギー変換、プロセスシミュレーションおよびサステナブル工学に関する研究指導を行う。

(8 Pranut Potiyaraj)
ポリエチレンテレフタラートの環境調和型リサイクル技術や天然ゴムおよび熱可塑性エラストマーの複合材料、高分子電解質の積層技術を利用した高機能繊維の開発に関する研究指導を行う。

(9 Somkiat Ngamprasertsith)
超臨界流体を利用した抽出や反応に関する研究指導を行う。

(10 Tharapong Vitidsant)
反応工学、触媒、熱伝達に関する研究指導を行う。

(11 Benjapon Chalermssinsuwan)
計算流体力学 (CFD)、実験デザインと分析、流動化、多相流、二酸化炭素回収とその利用およびデータサイエンスに関する研究指導を行う。

(12 Boonchoat Paosawatyanong)
プラズマ物理学に関する研究指導を行う。

(13 Duangdao Aht-Ong)
植物由来や生分解性プラスチック、ポリマーコンポジットやナノコンポジット材料、農業廃棄物の利用などの材料リサイクル、超音波補助化学やプロセッシング、廃棄物の燃料への熱化学転換に関する研究指導を行う。

(14 Duanghatai Pentrakoon)
パルプ黒酒から抽出したリグニンの難燃材料としての利用、精油を利用したポリエチレン用酸化防止剤、PE/EVAフォーム製造の廃棄物削減、スチレンとキャッサバのでんぷんからなるコポリマーフォームの作製、吸熱性/発熱性発泡剤の混合利用によるEVA/PEフォームの作製に関する研究指導を行う。

(15 Kanoktip Boonkerd)
ゴムの配合、天然資源か由来のゴム用フィラー材、ゴムの劣化、ドリアン殻から作製した多糖類ゲルの医療用途への応用に関する研究指導を行う。

(16 Kawee Srikulkit)
繊維やプラスチック用の機能性ナノ材料や天然材料、コットン生地上のカチオン性PAMAM-キトサンの抗菌性に関する研究指導を行う。

(17 Kejvalee Pruksathorn)
応用電気化学プロセスや燃料電池、環境浄化に関する研究指導を行う。

(18 Mantana Opaparakasit)

脂肪族-芳香族共重合体及びポリエステル混合物の熱可塑性および熱硬化剤等の分解性ポリマー、PLAやPETのケミカルリサイクル、バイオ触媒を利用した電解紡糸ファイバーに固定されたエンザイムに関する研究指導を行う。

(19 Nakorn Phaisangittisakul)

凝縮系物質理論、超伝導、高圧環境、強相関係、磁性材料及び材料物理学に関する研究指導を行う。

(20 Nantana Jiratumnukul)

コーティングや積層フィルム用ナノコンポジット、放射線硬化型のインク、接着剤やコーティング、コーティング用の高分子の合成や機能化、包装材料用の植物由来材料とその改良に関する研究指導を行う。

(21 Nisit Tantavichet)

電気化学工学や燃料電池等の電池開発に関する研究指導を行う。

(22 Piyabut Burikham)

粒子物理学理論、重力、理論物理学、物理学の他の分野への応用に関する研究指導を行う。

(23 Pornapa Sujaridworakun)

ナノ粒子の水熱合成、バイオセラミックスの作製、TiO₂やZnOをはじめとするナノコンポジット光触媒粉末や薄膜の合成、可視光応答光触媒の開発に関する研究指導を行う。

(24 Prapan Kuchonthara)

ガス化および水蒸気改質によるH₂または合成ガスの製造、バイオマスや廃棄物の水熱液化に関する研究指導を行う。

(25 Prasert Reubroycharoen)

燃料合成、水蒸気改質、水素化およびプラスチック熱分解のための不均一触媒に関する研究指導を行う。

(26 Ratana Rujiravanit)

先端材料、生体高分子、複合材料、プラズマ処理に関する研究指導を行う。

(27 Rattachat Mongkolnavin)

プラズマ物理学に関する研究指導を行う。

(28 Rojana Pornprasertsuk)

固体酸化物型燃料電池電解質の製造および導電性評価、固体酸化物型並びにプロトン伝導性セラミック燃料電池の電極用ナノワイヤーの作製等の電池に関する研究指導を行う。

(29 Sakuntam Sanorpim)

凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。

(30 Satreerat Hodak)

凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。

(31 Sirilux Poompradub)

高分子科学技術、二酸化炭素回収とその利用、複合材料および廃棄物のリサイクルに関する研究指導を行う。

(32 Sirithan Jiemsirilers)

ガラスシール材用、バイオガラス用、高化学耐久性用、金赤ガラス用および高性能ガラスセラミックス用のガラス並びにガラスセラミックスの開発に関する研究指導を行う。

(33 Siriwan Kittinaovarat)

コットン生地への耐圧性や抗菌性を含む綿織物の後処理、色素吸着用複合ビーズ用キトサンの改質、キトサン薄膜の物理的特性の向上に関する研究指導を行う。

(34 Somchai Kiatgamolchai)

凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。

(35 Surachate Limkummerd)

凝縮系物質理論、統計力学、確率体系に関する研究指導を行う。

(36 Thiti Bovornratanaraks)

凝縮系物理学、材料科学および固体物理学に関する研究指導を行う。

(37 Tonphong Kaewkongka)

実験物理学、工学物理学に関する研究指導を行う。

(38 Udomsilp Pinsook)

凝縮系物質理論、超伝導、高圧環境、強相関係、磁性材料および材料物理学に関する研究指導を行う。

(39 Vimolvan Pimpan)

材料科学におけるプラズマ応用、ナノ粒子やそのセンサー利用、ポリマーリサイクル、ポリマー合成と改質に関する研究指導を行う。

(40 Wanpen Techaboonyakiat)

組織工学、カプセル化、薬物輸送システム、化粧品等のバイオマテリアルや機能性ポリマーの合成や改質、高分子電解質錯体、植物由来ポリマーや生分解性ポリマーに関する研究指導を行う。

(41 Wantanee Buggakupta)

構造セラミックとセラミック基複合材料の特性と微細構造の関係や環境配慮用途への産業廃棄物の利用に関する研究指導を行う。

(42 Ampira CharoenSaeng)

界面活性剤と表面科学、石油増進回収法、ライフサイクルアセスメントに関する研究指導を行う。

(43 Anyaporn Boonmahitthisud)

微分マイクロエマルジョン重合による有機無機ナノハイブリッドの合成、高分子ナノコンポジットとその応用、ゴムやプラスチック科学、生分解性プラスチックに関する研究指導を行う。

(44 Auttakit Chatrabhuti)

理論的な高エネルギー素粒子物理学と宇宙論に関する研究指導を行う。

(45 Burin Asavapibhop)
高エネルギー粒子物理学実験、医学物理学及び物理教育に関する研究指導を行う。

(46 Dujreutai Pongkao Kashima)
電解析出による医療・歯科用チタンインプラントの生物活性向上、酸化物や無機化合物の抗菌性、水熱合成によるセラミック酸化物の形態制御に関する研究指導を行う。

(47 Karn Serivalsatit)
発光ナノ粒子の合成、透光性多結晶セラミックスの製造、可視光応答型光触媒、耐火物用酸化物ナノ粒子の利用に関する研究指導を行う。

(48 Manit Nithitanakul)
ナノコンポジット、薬物輸送、超疎水性コーティング、廃棄物利用、多孔質ポリマーに関する研究指導を行う。

(49 Montian Tianprateep)
光学的手法に関する研究指導を行う。

(50 Narumon Suwonjandee)
高エネルギー粒子の物理学実験、医学物理学および物理教育に関する研究指導を行う。

(51 Natthaphon Raengthon)
複合酸化物中の誘電体、強誘電体および圧電体、金属酸化物中の欠陥の化学、インピーダンス分光法による特性評価、高温高エネルギー密度キャパシタに関する研究指導を行う。

(52 Noravee Kanchanavatee)
凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。

(53 Norraphat Srimanobhas)
実験粒子物理学および大型バドロン衝突型加速器実験によるヒッグス粒子の標準モデルやその拡張モデルの探索に関する研究指導を行う。

(54 Nuttakorn Thubthong)
音響に関する研究指導を行う。

(55 Paisan Tooprakai)
天体物理学、天文学に関する研究指導を行う。

(56 Panadda Dechadilok)
生物物理学に関する研究指導を行う。

(57 Patcha Chatraphorn)
凝縮系物質理論、薄膜成長、薄膜成長過程と統計学的性質のモデリングに関する研究指導を行う。

(58 Pawin Ittisamai)
粒子物理学の標準モデル外への拡張理論の現象論的意味、特に大型バドロン衝突型加速器に関する研究指導を行う。

(59 Prasit Pattananuwat)
導電性高分子を利用したガスセンサー、グラフェンおよび酸化グラフェン、スーパーキャパシタおよび電池、生体親和性電極に関する研究指導を行う。

(60 Sojiphong Chatraphorn)
CIGS薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池、薄膜の製造と特性評価に関する研究指導を行う。

(61 Sukkaneste Tungasmita)
機能材料薄膜の各種製造方法や評価、潤滑剤のトライボロジー特性、工業用表面設計に関する研究指導を行う。

(62 Thanakorn Wasanapiarnpong)
陶磁器のスリップキャスト成形、Si₃N₄セラミックスの焼結、強誘電体セラミックス、産業廃棄物のセラミック原料としての利用、セラミック粉末の合成、セラミック加工(低コスト生産)技術、Al₂O₃とSi₃N₄の熱伝導率に関する研究指導を行う。

(63 Thiti Taychatanapat)
凝縮系物質の物性実験および2D材料に関する研究指導を行う。

(64 Usa Sangwatanaroj)
繊維の酵素処理、繊維の製造や処理工程における廃棄物の利用、地域資源と低分子キトサンを利用した繊維処理に関する研究指導を行う。

(65 Uthaiporn Suriyapraphadilok)
石油増進回収法、二酸化炭素利用、持続可能なプロセス設計に関する研究指導を行う。

(66 Varakorn Hengpunya)
凝縮系物質理論および統計物理学に関する研究指導を行う。

(67 Annop Ektarawong)
凝縮系物理学、固体物理学、計算材料科学に関する研究指導を行う。

(68 Apirat Theerapapvisetpong)
各種用途向けのガラスやガラスセラミックの開発、SOFC用高温シール材、鉛フリー低温シールガラス材、ガラス廃棄物由来の多孔質及び軽量セラミックス、ガラス特性の計算に関する研究指導を行う。

(69 Chatchai Srinitiwara Wong)
凝縮系物質理論、強相関係、磁性材料および材料物理学に関する研究指導を行う。

(70 Chayanit Asawatangtrakuldee)
大型バドロン衝突型加速器実験による実験的高エネルギー物理学(CMS)、ヒッグス粒子の物理やヒッグス粒子の標準モデル拡張の探索に関する研究指導を行う。

(71 Jitti Kasemchainan)
充電電池や電気化学エネルギーデバイスの開発および廃棄物のリサイクルに関する研究指導を行う。

(72 Manaswee Suttipong)
分子工学、金属イオン電池および界面活性剤の科学技術に関する研究指導を行う。

				<p>(73 Nathapol Pintuyothin) プロセスシステム工学および工学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(74 Nuttapol Pootrakulchote) 色素増感型太陽電池の性能とロバスト性向上のための機能化されたRu系増感剤の研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(75 Orapin Wannadelok) 光学的手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(76 Orathai Boondamnoen) 多孔質ゴム分離膜や薄膜、ラテックス廃液、再生ゴム、ラテックス廃棄物の利用、アクリレートフォームの吸収材、絹織物処理に関する研究指導を行う。</p> <p>(77 Rangsima Chanphana) 凝縮系物質理論、薄膜成長、薄膜成長過程と統計学的性質のモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(78 Rujikorn Dhanawittayapol) 高エネルギー理論物理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(79 Salinporn Kittiwatanakul) 凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。</p> <p>(80 Santipong Boribarn) 凝縮系物質理論および統計物理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(81 Somrit Wongmanerod) 実験物理学、基礎工学、光学機器に関する研究指導を行う。</p> <p>(82 Sujarinee Sinchai) 透光性多結晶セラミックス、水熱合成法による粉末合成、ゲルキャスト法によるニアネットセラミックス成形、複合装甲に関する研究指導を行う。</p> <p>(83 Teerawat Sema) 反応溶媒を利用した二酸化炭素の高効率分離と精製、化学反応に伴う熱と質量輸送、知能と知識を基盤とするシステムに関する研究指導を行う。</p> <p>(84 Wiphu Rujopakarn) 天文学に関する研究指導を行う。</p> <p>(85 Wuttichai Reainthippayasakul) セラミックナノ構造体の製造と特性評価、無機有機複合材料、材料表面の修飾や改質、光応答材料、誘電体および電子包装材料に関する研究指導を行う。</p> <p>(86 Yuttana Roongthumskul) 音響刺激に反応して内耳が発する低レベル音に関する研究指導を行う。</p>
--	--	--	--	---

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得

- した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 - 3 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要（国際連携学科等）

（工学研究科名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）（名古屋大学）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。それぞれの課題における問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法とデータを修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果を取りまとめる。両大学へ研究提案書、進捗サマリーを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルを修得する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅣA	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へ進捗サマリーや原稿などを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅤA	主大学で研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。主大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で原稿や報告書などを作成する。それまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅥA	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。博士論文審査に向けて論文を作成して両大学に提出する。これまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に関する課題に対する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	

名古屋大学	サステイナブル材料システム特別講義	<p>産業の持続可能な発展と技術について説明する。日本のいくつかの産業を見る機会を提供する。世界において変わりつつある開発、バイオサーキュラーグリーン (BCG) の経済、及び問題解決の概念を、産業部門および学術部門の経験豊富なスピーカーや専門家による講演を通じて理解する。さらに、持続可能な開発目標 (SDGs) において日本の産業界及び学術界がどのように取り組むべきかについて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業界における生産活動：基礎 3. 産業界における品質管理：基礎 4. 持続可能な開発目標 (SDGs)：基礎 5. SDGsの実現 6. SDGs経済を踏まえた様々な産業における持続可能な開発の原則と技術 7. 自動車関連業界等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 8. 工場見学1 9. エレクトロニクス産業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 10. 化学工業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 11. 素材産業等：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 12. 工場見学2 13. リサイクル業界：実産業界における生産・品質管理・SDGsの実例 14. グループスタディとディスカッション 15. 口頭発表（最終評価） 	
名古屋大学	(研究指導)	<p>(1 旭 良司) マテリアルズインフォマティクスや計算科学を利用して、データ駆動型材料設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 足立 吉隆) 鉄鋼材料を中核として、実験-計算工学-データサイエンスを組合せた3D-4D材料デザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(3 市野 良一) 電気化学を利用しためっきやリサイクルを中核とした研究指導を行う。</p> <p>(4 井藤 彰) 磁性ナノ粒子を利用したバイオプロセス、ナノメディシン、再生医療、がん治療に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 入山 恭寿) 新規な蓄電池の開発に向けた全固体電池、固体電解質、界面状態解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 宇佐美 徳隆) シリコン系材料のバルクからナノレベルの構造制御を利用した太陽電池やシリサイド関連物質の高品質結晶等に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 宇治原 徹) 結晶成長の高度な制御による高性能半導体や高機能放熱材料等の高品質結晶材料の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 川尻 喜章) モデリング、データ解析手法を応用し、吸着および二酸化炭素分離プロセスの開発に関する研究指導を行う。</p>	

(9 川角 昌弥)
次世代電池や水電解およびそれらに必要な電解質や電極材料に関する研究指導を行う。

(10 北 英紀)
LCAを考慮に入れたサーマルマネージメントやトライボロジー用のセラミックスおよびその製造システムに関する研究指導を行う。

(11 君塚 肇)
計算材料科学を用いて、物性モデリング、力学特性・変形機構、水素材料、電子・原子論解析など、複雑現象のシミュレーションに関する研究指導を行う。

(12 小橋 眞)
金属3Dプリンタ等を活用したラティス構造体などの超軽量ポーラス金属や異種材料接合などマルチマテリアルに関する研究指導を行う。

(13 小山 敏幸)
データサイエンスを利用した材料組織制御を通じた材料特性の制御に関する研究指導を行う。

(14 齋藤 永宏)
炭素材料を中心としたソリューションプラズマを利用したナノ材料合成技術等の研究指導を行う。

(15 高嶋 圭史)
シンクロトロン光を発する加速器の開発および同光を利用した材料解析に関する研究指導を行う。

(16 高見 誠一)
巢引接合法を利用したセラミックスナノ粒子の合成プロセスの開発に関する研究指導を行う。

(17 永岡 勝俊)
アンモニア合成・分解やCO₂からの燃料合成等の資源循環反応に使用する高機能触媒の設計・開発に関する研究指導を行う。

(18 則永 行庸)
炭素資源利用技術や反応シミュレーション、化学反応器デザインを通じたCO₂分離回収と利用等に関する研究指導を行う。

(19 原田 寛)
凝固を出発点とした金属材料の材料加工技術やその予測・制御に関する研究指導を行う。

(20 松尾 豊)
機能化ナノカーボンの合成やそれを活用した新規な有機系太陽電池および感圧材等に関する研究指導を行う。

(21 水口 将輝)
スピントロニクスを基軸とし、ナノスピンや磁性の制御による機能性磁性材料の開発に関する研究指導を行う。

(22 山本 剛久)
フラッシュ焼結法を利用したファインセラミックスの作製と透過型電子顕微鏡 (HRTEM、STEM) などによるナノ構造解析に関する研究指導を行う。

(23 一木 輝久)
マテリアルズインフォマティクスや情報統計力学を利用した最適実験デザインや自立型人工知能等に関する研究指導を行う。

(24 伊藤 孝至)
熱電材料や熱電発電システムによる省エネルギーかつ低環境負荷なエネルギー変換に関する研究指導を行う。

(25 伊藤 孝寛)
超電導材料等のシンクロトロン光を利用した材料構造や材料特性の分析等に関する研究指導を行う。

(26 王 謙)
光触媒を利用した水分解による水素発生や人工光合成による二酸化炭素再資源化等に関する研究指導を行う。

(27 黒川 康良)
ナノ構造を利用した光散乱を制御による光閉じ込め構造材料や太陽電池等に関する研究指導を行う。

(28 小島 義弘)
超音波支援による金属微粒子合成、高分子合成・分解、排水処理に関する研究指導を行う。

(29 小林 敬幸)
蓄熱や吸着、ヒートポンプ等のエネルギー変換に関する研究指導を行う。

(30 高田 尚記)
高温体制を有する軽量超合金の設計や金属のミクロおよびマクロ組織制御に関する研究指導を行う。

(31 田川 美穂)
DNAとナノ粒子を利用したナノ構造体の構造制御や収縮制御に関する研究指導を行う。

(32 塚田 祐貴)
材料微細組織、相変態など、フェーズフィールド法等を用いた材料設計に関する研究指導を行う。

(33 乗松 航)
グラフェンを中心としたナノカーボンの合成方法や構造制御、構造分析に関する研究指導を行う。

(34 原田 俊太)
半導体や放熱用結晶の微小構造の制御による高品質結晶合成と同プロセスや検査への機械学習・AI利用に関する研究指導を行う。

(35 稗田 純子)
表面・界面特性を制御した機能性薄膜材料やその特殊環境での使用に関する研究指導を行う。

(36 藤原 幸一)
スモールデータの収集を基軸とした機械学習、生体信号処理、てんかん学、睡眠医学、プロセスシステム工学に関する研究指導を行う。

(37 松岡 辰郎)
高周波レオオプティクスを利用した液晶挙動および超音波・表面波を利用したソフトマテリアルの物性に関する研究指導を行う。

(38 松宮 弘明)
微量分析および環境浄化材料を中心とした研究指導を行う。

(39 宮町 俊生)
機能性磁性材料のミクロレベルでの構造解析や特性評価を通し、機能発現の原理解明等に関する研究指導を行う。

(40 向井 康人)
ナノファイバー等を利用した膜濾過や吸着技術による水処理等の精密分離に関する研究指導を行う。

(41 安田 啓司)
ソノケミストリーを中心に、ファインバブルやキャビテーション等を利用した水処理、ナノマテリアル合成に関する研究指導を行う。

(42 山本 徹也)
炭素繊維複合材料の高機能化・高性能化およびそれを実現するコロイド技術に関する研究指導を行う。

(43 湯川 伸樹)
合金を含む金属材料の塑性変形を基礎とした材料加工およびバルク・界面構造に関する研究指導を行う。

(44 小川 登志男)
ナノ構造から最先端鉄鋼材料の設計に関する研究指導を行う。

(45 蔡 尚佑)
ソリューションプラズマを利用したナノ材料へのカーボン材料のコーティング等に関する研究指導を行う。

(46 出口 清一)
低温水素製造や廃熱利用熱電発電等の環境調和型材料創製に関する研究指導を行う。

(47 藤木 淳平)
振動検証を利用した多孔質材料への吸着や熱物質移動等のモデリングに関する研究指導を行う。

(48 本山 宗主)
電極や勝つ物質等のナノ構造制御による電池特性の向上や解析に関する研究指導を行う。

(49 阿部 英嗣)
金属材料の塑性加工および材料強度・寿命評価に関する研究指導を行う。

(50 石垣 範和)
イオン伝導などのナノ構造に起因する材料特性やその評価に関する研究指導を行う。

(51 入澤 寿平)
カーボンナノチューブやカーボン繊維等を利用した高機能材料の開発に関する研究指導を行う。

(52 上野 智永)
カーボン材料をベースとした高信頼性有機材料、超軽量材料、熱制御材料、難燃材料に関する研究指導を行う。

(53 WANG Zhilei)
マテリアルズインフォマティクスによる構造・機能材料のデザインに関する研究指導を行う。

(54 郭 磊)
高機能なフォトカソードの開発に関する研究指導を行う。

(55 金子 真大)
磁性ナノ粒子を利用したがん治療やバイオマテリアル等に関する研究指導を行う。

(56 神田 英輝)
超臨界流体を利用した、プラズマナノ粒子の合成や抽出・分離技術に関する研究指導を行う。

(57 窪田 光宏)
化学蓄熱やヒートポンプなどを利用したエネルギー貯蔵やデシカント空調システム等に関する研究指導を行う。

(58 後藤 和泰)
新規ヘテロ接合材料を利用した次世代太陽電池等に関する研究指導を行う。

(59 鈴木 飛鳥)
熱マネジメント用ポーラス金属材料の設計および積層造形や異材接合に関する研究指導を行う。

(60 CHOKRADJAROEN Chayanaphat)
溶液プラズマを利用し、キトサンのような生物由来化合物と利用したサステナブル材料に関する研究指導を行う。

(61 徳永 智春)
透過型電子顕微鏡を用いたナノ構造のその場観察によるカーボン系触媒に関する研究指導を行う。

(62 中村 真季)
シミュレーションや数値計算を利用した触媒付ディーゼル微粒子フィルターの予測・設計に関する研究指導を行う。

(63 萩尾 健史)
ナノ構造を有する材料を中核とした分離技術に関する研究指導を行う。

(64 服部 将朋)
環境浄化に有効な、ナノ結晶、ナノ金属/金属酸化物とその複合材料やそれを用いたシステムに関する研究指導を行う。

				<p>(65 町田 洋) CO2分離回収用の吸収液開発とそれを利用した省エネルギープロセス設計やプロセスシミュレーション、相平衡に関する研究指導を行う。</p> <p>(66 矢島 智之) シミュレーション等を利用した材料やシステムの設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(67 山口 毅) 物理化学、溶液化学、輸送物性、レオロジー、統計力学に関する研究指導を行う。</p> <p>(68 山下 誠司) 粉体工学、粒子分散、セラミックス、サーマルマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(69 山田 博史) 多相系反応器による反応分離や物質移動等に関する研究指導を行う。</p> <p>(70 湯川 宏) 水素透過・貯蔵材料、水素センシング等、水素エネルギー材料に関する研究指導を行う。</p> <p>(71 LIN Haosheng) ナノカーボンの合成や有機系およびペロブスカイト型太陽電池等に関する研究指導を行う。</p>	
--	--	--	--	---	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その3の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（工学研究科名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻）（チュラロンコン大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	チュラロンコン大学	博士論文研究IB	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成・提出する。それぞれの課題における問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IIB	主大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法とデータを修得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果をとりまとめる。両大学へ研究提案書、進捗サマリーを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IIIB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析手法を修得し、課題を遂行する。専門分野における異文化環境下でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを修得する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルを修得する。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究IVB	副大学において研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。両大学へ進捗サマリーや原稿などを提出する。それぞれの課題遂行に必要な実験法・データ解析法に関する問題把握と既存研究の整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する理解を深める。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究VIB	主大学で研究遂行に必要な実験技術・解析データを修得し、課題を遂行する。主大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で原稿や報告書などを作成する。それまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に対する課題に関する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	
	チュラロンコン大学	博士論文研究VIB	主大学において研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。博士論文審査に向けて論文を作成して両大学に提出する。これまでの研究成果を過去の知見に照らして整理を行い、博士研究として取り組む分野に関する課題に対する理解を深める。それぞれの課題における研究成果の取りまとめを行い、知見に照らしてその意義に対する理解を深めるとともに今後の課題を整理する。	

<p>チュラロンコン大学</p>	<p>サステイナブル材料科学特別講義</p>	<p>産業の持続可能な発展と技術について説明する。タイのいくつかの産業を見る機会を提供する。世界において変わりつつある開発、バイオサーキュラーグリーン (BCG) の経済、及び問題解決の概念を、産業部門および学術部門の経験豊富なスピーカーや専門家による講演を通じて理解する。さらに、持続可能な開発目標 (SDGs) においてタイの産業界及び学術界がどのように取り組むべきかについて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業界における生産：基本 3. 産業界における品質管理：基本 4. 持続可能な開発目標 (SDGs) について 5. BCGの産業への適用 6. BCG経済を踏まえた様々な産業における持続可能な開発原則と技術 7. 農業・バイオマス産業等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 8. 工場見学1 9. リサイクル業界等：生産・品質管理・SDGsの実現 10. 工場見学2 11. 建設資材業界等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 12. エレクトロニクス業界等：生産・品質管理・BCGの適用による持続的発展 13. 工場見学3 14. グループスタディとディスカッション 15. 口頭発表（最終評価） 	
<p>チュラロンコン大学</p>	<p>(研究指導)</p>	<p>(1 Boonyarach Kitiyanan) 触媒および反応工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 Chawalit Ngamcharussrivichai) 金属酸化物、ゼオライト、メソポーラスモレキュラーシーブの合成と特性評価、触媒を利用したリグノセルロース系バイオマスと脂質の燃料や有価化学物質への変換、微細藻類のバイオ精製、多孔質材料を用いた選択吸着に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 Napida Hinchiranan) ポリマーの化学修飾、固形廃棄物および代替液体燃料の精製やその利用に向けた触媒プロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>(4 Nattaya Pongstabodee) 二酸化炭素回収とその利用、水素製造および環境配慮技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 Nisanart Traiphol) センシング用およびプラスチック太陽電池の被覆材用の無機/有機ナノコンポジット材料、各種溶媒へのコロイド粒子やナノ粒子の分散技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 Parinya Karndumri) 高エネルギー理論物理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 Pornpote Piumsomboon) 二酸化炭素回収プロセス、エネルギー変換、プロセスシミュレーションおよびサステナブル工学に関する研究指導を行う。</p>	

(8 Pranut Potiyaraj)

ポリエチレンテレフタラートの環境調和型リサイクル技術や天然ゴムおよび熱可塑性エラストマーの複合材料、高分子電解質の積層技術を利用した高機能繊維の開発に関する研究指導を行う。

(9 Somkiat Ngamprasertsith)

超臨界流体を利用した抽出や反応に関する研究指導を行う。

(10 Tharapong Vitidsant)

反応工学、触媒、熱伝達に関する研究指導を行う。

(11 Benjapon Chalermisinsuwan)

計算流体力学 (CFD)、実験デザインと分析、流動化、多相流、二酸化炭素回収とその利用およびデータサイエンスに関する研究指導を行う。

(12 Boonchoat Paosawatanyong)

プラズマ物理学に関する研究指導を行う。

(13 Duangdao Aht-Ong)

植物由来や生分解性プラスチック、ポリマーコンポジットやナノコンポジット材料、農業廃棄物の利用などの材料リサイクル、超音波補助化学やプロセスング、廃棄物の燃料への熱化学転換に関する研究指導を行う。

(14 Duanghatai Pentrakoon)

パルプ黒酒から抽出したリグニンの難燃材料としての利用、精油を利用したポリエチレン用酸化防止剤、PE/EVAフォーム製造の廃棄物削減、スチレンとキャッサバのでんぷんからなるコポリマーフォームの作製、吸熱性/発熱性発泡剤の混合利用によるEVA/PEフォームの作製に関する研究指導を行う。

(15 Kanoktip Boonkerd)

ゴムの配合、天然資源か由来のゴム用フィラー材、ゴムの劣化、ドリアン殻から作製した多糖類ゲルの医療用途への応用に関する研究指導を行う。

(16 Kawee Srikulkit)

繊維やプラスチック用の機能性ナノ材料や天然材料、コットン生地上のカチオン性PAMAM-キトサンの抗菌性に関する研究指導を行う。

(17 Kejvalee Pruksathorn)

応用電気化学プロセスや燃料電池、環境浄化に関する研究指導を行う。

(18 Mantana Opaprakasit)

脂肪族-芳香族共重合体及びポリエステル混合物の熱可塑性および熱硬化剤等の分解性ポリマー、PLAやPETのケミカルリサイクル、バイオ触媒を利用した電解紡糸ファイバーに固定されたエンザイムに関する研究指導を行う。

(19 Nakorn Phaisangittisakul)

凝縮系物質理論、超伝導、高圧環境、強相関係、磁性材料及び材料物理学に関する研究指導を行う。

- (20 Nantana Jiratumnukul)
コーティングや積層フィルム用ナノコンポジット、放射線硬化型のインク、接着剤やコーティング、コーティング用の高分子の合成や機能化、包装材用の植物由来材料とその改良に関する研究指導を行う。
- (21 Nisit Tantavichet)
電気化学工学や燃料電池等の電池開発に関する研究指導を行う。
- (22 Piyabut Burikham)
粒子物理学理論、重力、理論物理学、物理学の他の分野への応用に関する研究指導を行う。
- (23 Pornapa Sujaridworakun)
ナノ粒子の水熱合成、バイオセラミックスの作製、TiO₂やZnOをはじめとするナノコンポジット光触媒粉末や薄膜の合成、可視光応答光触媒の開発に関する研究指導を行う。
- (24 Prapan Kuchonthara)
ガス化および水蒸気改質によるH₂または合成ガスの製造、バイオマスや廃棄物の水熱液化に関する研究指導を行う。
- (25 Prasert Reubroycharoen)
燃料合成、水蒸気改質、水素化およびプラスチック熱分解のための不均一触媒に関する研究指導を行う。
- (26 Ratana Rujiravanit)
先端材料、生体高分子、複合材料、プラズマ処理に関する研究指導を行う。
- (27 Rattachat Mongkolnavin)
プラズマ物理学に関する研究指導を行う。
- (28 Rojana Pornprasertsuk)
固体酸化物型燃料電池電解質の製造および導電性評価、固体酸化物型並びにプロトン伝導性セラミック燃料電池の電極用ナノワイヤーの作製等の電池に関する研究指導を行う。
- (29 Sakuntam Sanorpim)
凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。
- (30 Satreerat Hodak)
凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。
- (31 Sirilux Poompradub)
高分子科学技術、二酸化炭素回収とその利用、複合材料および廃棄物のリサイクルに関する研究指導を行う。
- (32 Sirithan Jiemsirilers)
ガラスシール材用、バイオガラス用、高化学耐久性用、金赤ガラス用および高性能ガラスセラミックス用のガラス並びにガラスセラミックスの開発に関する研究指導を行う。

- (33 Siriwan Kittinaovarat)
コットン生地への耐圧性や抗菌性を含む綿織物の後処理、色素吸着用複合ビーズ用キトサンの改質、キトサン薄膜の物理的特性の向上に関する研究指導を行う。
- (34 Somchai Kiatgamolchai)
凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。
- (35 Surachate Limkumnerd)
凝縮系物質理論、統計力学、確率体系に関する研究指導を行う。
- (36 Thiti Bovornratanaraks)
凝縮系物理学、材料科学および固体物理学に関する研究指導を行う。
- (37 Tonphong Kaewkongka)
実験物理学、工学物理学に関する研究指導を行う。
- (38 Udomsilp Pinsook)
凝縮系物質理論、超伝導、高圧環境、強相関係、磁性材料および材料物理学に関する研究指導を行う。
- (39 Vimolvan Pimpan)
材料科学におけるプラズマ応用、ナノ粒子やそのセンサー利用、ポリマーリサイクル、ポリマー合成と改質に関する研究指導を行う。
- (40 Wanpen Techaboonyakiat)
組織工学、カプセル化、薬物輸送システム、化粧品等のバイオマテリアルや機能性ポリマーの合成や改質、高分子電解質錯体、植物由来ポリマーや生分解性ポリマーに関する研究指導を行う。
- (41 Wantanee Buggakupta)
構造セラミックとセラミック基複合材料の特性と微細構造の関係や環境配慮用途への産業廃棄物の利用に関する研究指導を行う。
- (42 Ampira CharoenSaeng)
界面活性剤と表面科学、石油増進回収法、ライフサイクルアセスメントに関する研究指導を行う。
- (43 Anyaporn Boonmahitthisud)
微分マイクロエマルジョン重合による有機無機ナノハイブリッドの合成、高分子ナノコンポジットとその応用、ゴムやプラスチック科学、生分解性プラスチックに関する研究指導を行う。
- (44 Auttakit Chatrabhuti)
理論的な高エネルギー素粒子物理学と宇宙論に関する研究指導を行う。
- (45 Burin Asavapibhop)
高エネルギー粒子物理学実験、医学物理学及び物理教育に関する研究指導を行う。
- (46 Dujreutai Pongkao Kashima)
電解析出による医療・歯科用チタンインプラントの生物活性向上、酸化物や無機化合物の抗菌性、水熱合成によるセラミック酸化物の形態制御に関する研究指導を行う。

- (47 Karn Serivalsatit)
発光ナノ粒子の合成、透光性多結晶セラミックスの製造、可視光応答型光触媒、耐火物用酸化ナノ粒子の利用に関する研究指導を行う。
- (48 Manit Nithitanakul)
ナノコンポジット、薬物輸送、超疎水性コーティング、廃棄物利用、多孔質ポリマーに関する研究指導を行う。
- (49 Montian Tianprateep)
光学的手法に関する研究指導を行う。
- (50 Narumon Suwonjandee)
高エネルギー粒子の物理学実験、医学物理学および物理教育に関する研究指導を行う。
- (51 Natthaphon Raengthon)
複合酸化物中の誘電体、強誘電体および圧電体、金属酸化物中の欠陥の化学、インピーダンス分光法による特性評価、高温高エネルギー密度キャパシタに関する研究指導を行う。
- (52 Noravee Kanchanavatee)
凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。
- (53 Norraphat Srimanobhas)
実験粒子物理学および大型バドロン衝突型加速器実験によるヒッグス粒子の標準モデルやその拡張モデルの探索に関する研究指導を行う。
- (54 Nuttakorn Thubthong)
音響に関する研究指導を行う。
- (55 Paisan Tooprakai)
天体物理学、天文学に関する研究指導を行う。
- (56 Panadda Dechadilok)
生物物理学に関する研究指導を行う。
- (57 Patcha Chatraphorn)
凝縮系物質理論、薄膜成長、薄膜成長過程と統計学的性質のモデリングに関する研究指導を行う。
- (58 Pawin Ittisamai)
粒子物理学の標準モデル外への拡張理論の現象論的意味、特に大型バドロン衝突型加速器に関する研究指導を行う。
- (59 Prasit Pattananuwat)
導電性高分子を利用したガスセンサー、グラフェンおよび酸化グラフェン、スーパーキャパシタおよび電池、生体親和性電極に関する研究指導を行う。
- (60 Sojiphong Chatraphorn)
CIGS薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池、薄膜の製造と特性評価に関する研究指導を行う。

- (61 Sukkaneste Tungasmita)
機能材料薄膜の各種製造方法や評価、潤滑剤のトライボロジー特性、工業用表面設計に関する研究指導を行う。
- (62 Thanakorn Wasanapiarnpong)
陶磁器のスリップキャスト成形、Si₃N₄セラミックスの焼結、強誘電体セラミックス、産業廃棄物のセラミック原料としての利用、セラミック粉末の合成、セラミック加工(低コスト生産)技術、Al₂O₃とSi₃N₄の熱伝導率に関する研究指導を行う。
- (63 Thiti Taychatanapat)
凝縮系物質の物性実験および2D材料に関する研究指導を行う。
- (64 Usa Sangwatanaraj)
繊維の酵素処理、繊維の製造や処理工程における廃棄物の利用、地域資源と低分子キトサンを利用した繊維処理に関する研究指導を行う。
- (65 Uthaiporn Suriyapraphadilok)
石油増進回収法、二酸化炭素利用、持続可能なプロセス設計に関する研究指導を行う。
- (66 Varakorn Hengpunya)
凝縮系物質理論および統計物理学に関する研究指導を行う。
- (67 Annop Ektarawong)
凝縮系物理学、固体物理学、計算材料科学に関する研究指導を行う。
- (68 Apirat Theerapapvisetpong)
各種用途向けのガラスやガラスセラミックの開発、SOFC用高温シール材、鉛フリー低温シールガラス材、ガラス廃棄物由来の多孔質及び軽量セラミックス、ガラス特性の計算に関する研究指導を行う。
- (69 Chatchai Srinitiwawong)
凝縮系物質理論、強相関係、磁性材料および材料物理学に関する研究指導を行う。
- (70 Chayanit Asawatangtrakuldee)
大型バドロン衝突型加速器実験による実験的高エネルギー物理学(CMS)、ヒッグス粒子の物理やヒッグス粒子の標準モデル拡張の探索に関する研究指導を行う。
- (71 Jitti Kasemchainan)
充電電池や電気化学エネルギーデバイスの開発および廃棄物のリサイクルに関する研究指導を行う。
- (72 Manaswee Suttipong)
分子工学、金属イオン電池および界面活性剤の科学技術に関する研究指導を行う。
- (73 Nathapol Pintuyothin)
プロセスシステム工学および工学教育に関する研究指導を行う。
- (74 Nuttapol Pootrakulchote)
色素増感型太陽電池の性能とロバスト性向上のための機能化されたRu系増感剤の研究に関する研究指導を行う。

			<p>(75 Orapin Wannadelok) 光学的手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(76 Orathai Boondamnoen) 多孔質ゴム分離膜や薄膜、ラテックス廃液、再生ゴム、ラテックス廃棄の利用、アクリレートフォームの吸収材、絹織物処理に関する研究指導を行う。</p> <p>(77 Rangsima Chanphana) 凝縮系物質理論、薄膜成長、薄膜成長過程と統計学的性質のモデリングに関する研究指導を行う。</p> <p>(78 Rujikorn Dhanawittayapol) 高エネルギー理論物理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(79 Salinporn Kittiwatanakul) 凝縮系物質の物性実験に関する研究指導を行う。</p> <p>(80 Santipong Boribarn) 凝縮系物質理論および統計物理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(81 Somrit Wongmanerod) 実験物理学、基礎工学、光学機器に関する研究指導を行う。</p> <p>(82 Sujarinee Sinchai) 透光性多結晶セラミックス、水熱合成法による粉末合成、ゲルキャスト法によるニアネットセラミックス成形、複合装甲に関する研究指導を行う。</p> <p>(83 Teerawat Sema) 反応溶媒を利用した二酸化炭素の高効率分離と精製、化学反応に伴う熱と質量輸送、知能と知識を基盤とするシステムに関する研究指導を行う。</p> <p>(84 Wiphu Rujopakarn) 天文学に関する研究指導を行う。</p> <p>(85 Wuttichai Reainthippayasakul) セラミックナノ構造体の製造と特性評価、無機有機複合材料、材料表面の修飾や改質、光応答材料、誘電体および電子包装材料に関する研究指導を行う。</p> <p>(86 Yuttana Roongthumskul) 音響刺激に反応して内耳が発する低レベル音に関する研究指導を行う。</p>	
--	--	--	---	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。